

研究基礎

Basic Seminar for Master's Thesis

修士論文作成に向けて、基礎的研究手法を学ぶ。

安松 幹展 他 (YASUMATSU MIKINOBU et al.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN001
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6610
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

研究テーマの確定、指導教員選択に向けての導入期科目。研究倫理、統計手法、レジュメ作成方法、資料検索方法、論文作成方法、テーマ選定、研究アプローチ等、研究する上での基礎的研究手法を学ぶ。

It is an Introduction Phase subject aimed at deciding your research theme and selecting your academic advisor. You will learn the fundamentals of performing research, such as research ethics, statistical methods, resume preparation, material search methods, thesis preparation, theme selection, and research approach.

授業の内容 / Course Contents

スポーツに関わる臨床・実証研究を行う上で必須となる調査方法論に関する文献講読とともに、受講生の研究報告を行う。修士論文作成に向けて、受講者の研究関心を批判的に検討し、その研究枠組み(research design)を確立させることを目的とする。授業は、(1) 調査方法論に関するテキストまたは論文の輪読、(2) 受講生による研究構想報告と先行研究の報告、(3) 担当講師の講義から成る。

In this course, students will read literature on research methodologies that are essential for conducting clinical and empirical research related to sports, and report on their research. The purpose of the course is to critically

examine the students' research interests and establish a research design for their master's thesis. The class will consist of (1) readings of texts and articles on research methodology, (2) reports on research concepts and previous studies by the students, and (3) lectures by the instructor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスおよび研究倫理について
- 2 回：トレーニング科学、コーチング分野の研究
- 3 回：環境生理学、神経科学分野の研究
- 4 回：スポーツ文化と教育分野の研究
- 5 回：スポーツ・運動心理学、動機付け分野の研究
- 6 回：ウエルネスジェンダー学分野の研究
- 7 回：スポーツ栄養学分野の研究
- 8 回：分子細胞生物学分野の研究
- 9 回：スポーツ社会学分野の研究
- 10 回：バイオメカニクス分野の研究
- 11 回：スポーツ医学分野の研究
- 12 回：野外教育、環境教育分野の研究
- 13 回：アスレティックトレーニング学・コンディショニング分野の研究
- 14 回：スポーツ方法学分野の研究／基礎的研究手法のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

プロジェクト研究

Research Project

スポーツ科学とウェルネス科学の融合

松田 恵示／吉田 成仁 (MATSUDA KEIJI/ YOSHIDA NARUTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウェルネス学研究科

科目コード等： MN002

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 第7回と第12回、第13回は対面で実施する。変更になった場合はCanvas LMSで配信する。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6610

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウェルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ科学とウェルネス科学を融合した視点で研究調査を考察できる。

Consider research investigations from a perspective that integrates sport science and wellness science.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ科学を専門とする教員とウェルネス科学を専門とする教員の2名が担当し、両科学分野の研究手法を用いたプロジェクト研究を各4回の授業でそれぞれ実施し結果をまとめて発表・議論する。後半では、両科学分野の研究手法の違いやお互いの分野への応用の可能性について議論し考察する。

Two teachers, one specialising in sports science and the other in wellness science, are responsible for conducting project research using research methods from both scientific fields in each of the four lessons, and the results are summarised, presented and discussed. At the end of the course, the differences between the research methods of the two scientific fields and the possibilities of applying them to each other's fields are discussed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：スポーツ科学分野とウエルネス科学分野の研究例
- 3回：ウエルネス科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）①研究テーマ・目的の決定
- 4回：ウエルネス科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）②周辺研究の検索（研究背景）
- 5回：ウエルネス科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）③実験・研究の実施
- 6回：ウエルネス科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）④研究結果のまとめと考察
- 7回：ウエルネス科学分野のプロジェクト研究の発表と議論
- 8回：スポーツ科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）①研究テーマ・目的の決定
- 9回：スポーツ科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）②周辺研究の検索（研究背景）
- 10回：スポーツ科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）③調査・研究の実施
- 11回：スポーツ科学分野のプロジェクト研究の実施（グループワーク）④研究結果のまとめと考察
- 12回：スポーツ科学分野のプロジェクト研究の発表と議論
- 13回：スポーツ科学とウエルネス科学を融合した研究者の招待講演
- 14回：まとめ（スポーツ科学とウエルネス科学の融合とは）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% スポーツ科学分野の研究内容:30% ウエルネス分野の研究内容:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項（検索結果画面）**

スポーツウエルネス学研究科必修科目

SW研究1（スポーツ社会学）

Studies In Sports Wellness 1(Sport Sociology)

現代スポーツにおける理論的・実践的課題とその乗り越えの可能性

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN200

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを社会現象として捉え、それを取り巻く様々な問題を社会的に検討し、スポーツと現代社会をめぐる理論的・実践的課題及びこれからのスポーツのあり方を考究する。

This course will examine various issues surrounding sport as a social phenomenon from a sociological perspective, and investigate the theoretical and practical issues surrounding sport and modern society, as well as the future of sports.

授業の内容 / Course Contents

近代スポーツに関する歴史的経緯とその社会的・文化的背景を踏まえて、現代社会におけるスポーツの理論的・実践的課題について社会的に検討し、これからのスポーツのあり方について考究する。スポーツに関する論文を輪読し、それを踏まえながらスポーツの現在の課題を浮き彫りにし、これからのスポーツのあり方について全員で議論する。

Based on the historical background of modern sports and its social and cultural background, this course will

examine the theoretical and practical issues of sports in modern society from a sociological perspective and discuss the future of sports. Students will review articles on sports in a circle, highlight the current issues of sports based on their contents and discuss the future of sports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：授業の進め方、自己紹介（研究領域と問題関心）
- 2 回：スポーツの社会学的理解 対象と方法
- 3 回：近代スポーツ発展過程とその背景
- 4 回：論文講読（1）近代スポーツの発展過程
- 5 回：スポーツの記号論
- 6 回：論文講読（2）記号論的アプローチ
- 7 回：スポーツにおける社会的逸脱（バーンアウト）
- 8 回：論文講読（3）スポーツ競技者のバーンアウト研究
- 9 回：スポーツにおける社会的逸脱（ドーピング）
- 10 回：論文講読（4）スポーツ競技者のドーピング研究
- 11 回：スポーツと政治・メディア
- 12 回：論文講読（5）オリンピックと政治に関する研究
- 13 回：論文講読（6）スポーツとメディアに関する研究
- 14 回：スポーツの近未来 ディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

J.コークリー／P.ドネリー，前田和司・大沼義彦・松村和則共編訳 『現代スポーツの社会学－課題と共生への道のり』 南窓社 2011 9784816503986 -

参考文献 / Readings

多木浩二 『スポーツを考える－身体・資本・ナショナリズム』 筑摩書房 1995 4480056475

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究2（野外教育、環境教育）

Studies in Sports Wellness 2(Outdoor Education and Environmental Education)

環境思想・環境倫理を理解し、社会の持続可能性について考える

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN202

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

持続可能な社会を作るため、環境思想や環境倫理を学ぶ。その後、持続可能な社会を作る方法の1つである環境教育の可能性を検討する。

Students will learn about environmental philosophy and environmental ethics to create a sustainable society.

After that, we will examine the possibility of environmental education as one of the ways to create a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

本講義では日本語または英語の環境思想・環境倫理の文献を教材に学ぶ。その上で、国内外の環境教育の実践事例に関する資料を検討し、これからの環境教育について議論する。

In this lecture, students will learn from literature on environmental philosophy and environmental ethics in Japanese and English. After that we will examine materials on practical cases of environmental education in Japan and abroad and discuss the future of environmental education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：近現代社会と環境問題（1）「産業革命以降の社会と公害」
- 3回：近現代社会と環境問題（2）「グローバル化と地球環境問題」
- 4回：環境思想の潮流（1）「キリスト教的自然観」
- 5回：環境思想の潮流（2）「ロマン主義～レイチェルカーソン」
- 6回：環境思想の潮流（3）「人間中心主義と非人間中心主義」
- 7回：環境思想の潮流（4）「エコロジズムと環境プラグマティズム」
- 8回：環境教育の歴史（1）「世界の環境教育」
- 9回：環境教育の歴史（2）「日本の環境教育」
- 10回：環境教育を体験する（1）「内在的自然に気づく」
- 11回：環境教育を体験する（2）「自然観察と環境保全活動」
- 12回：SDGs と ESD
- 13回：これからの環境教育について考える
- 14回：全体討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業に参加する姿勢:70% 哲学対話:30%

テキスト / Textbooks

加藤尚武 『新・環境倫理学のすすめ』 丸善出版 2020 4621305875 -

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究3（トレーニング科学、コーチング

Studies in Sports Wellness 3(Training Science and Coaching

トレーニング科学とコーチング

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN204

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツコーチングやトレーニングに関する研究論文等を精読して、スポーツ指導における新しい知見の理解を深める。

Deepen your understanding of the new knowledge about sports instruction through reading research papers about coaching sports and training.

授業の内容 / Course Contents

スポーツにおけるコーチングやトレーニング科学についての研究動向について紹介して受講生とディスカッションする。また、スポーツ指導に関わっている受講生は指導実践について報告する。授業の流れとしては、トレーニングやコーチングに関する講義を受けて、テキストの中から興味がある章を決めて文献を読み、内容について発表する。

Research trends in coaching and training science in sport will be introduced and discussed with the students. Students involved in sports coaching will also report on their coaching practice. The course will consist of a

lecture on training and coaching, followed by a reading of the literature and a presentation on the contents of the textbook.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コーチング分野に関する文献紹介
- 2 回：トレーニング科学分野に関する文献紹介
- 3 回：コーチング、トレーニング科学分野の倫理申請について
- 4 回：論文抄読会の説明と割り振り
- 5 回：トレーニング科学講義（筋力トレーニング）
- 6 回：課題論文抄読の発表（1）
- 7 回：トレーニング科学講義（持久力トレーニング）
- 8 回：課題論文抄読の発表（2）
- 9 回：トレーニング科学講義（その他のトレーニング）
- 10 回：コーチング分野に関する講義
- 11 回：課題論文抄読の発表（3）
- 12 回：総説文献発表およびディスカッション（1）
- 13 回：総説文献発表およびディスカッション（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習や課題の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS で行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

David Daniel Lewindon 『ハイパフォーマンスの科学』 ナップ 2018 139781450444828 -

参考文献 / Readings

大橋二郎、池田誠剛、沼澤秀雄、掛水隆 『サッカーフィットネスの科学』 東京電機大学出版 1998

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究4（環境生理学、神経科学）

Studies in Sports Wellness 4(Environmental Physiology, Neuroscience)

環境生理学、神経科学

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN206

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 第12回は対面で実施する予定である。変更になった場合は授業内で告知およびCanvas LMSで配信する。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

環境生理学そして神経科学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、パフォーマンスに対する生理・神経機能の働きやその向上方法について理解を深める。

Students will learn about environmental physiology and neuroscience from international journal articles and other literature, and deepen their understanding of how physiology and neurological functions affect performance and how to improve it.

授業の内容 / Course Contents

本講義では日本語または英語の環境生理学そして神経科学の文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。

In this lecture, students will learn from literature and textbooks on environmental physiology and neuroscience in

Japanese and English. In addition, to support their independent research activities, students will read review articles in international journals of their own choice, present the contents, and then explain and discuss the contents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：神経科学研究の手法
- 3回：環境生理学研究の手法、倫理申請書の書き方
- 4回：倫理申請書の発表
- 5回：論文査読方法の説明
- 6回：神経科学講義（運動と中枢神経系の関係）
- 7回：課題論文査読の発表（1）
- 8回：環境生理学講義（運動と遺伝子の関係）
- 9回：課題論文査読の発表（2）
- 10回：神経科学講義（生活習慣と中枢神経系の関係）
- 11回：英語総説文献の検索方法、選定
- 12回：神経科学研究の実際
- 13回：環境生理学講義（体温調節とパフォーマンスの関係）
- 14回：英語総説文献発表およびディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

Romain Meeusen, Sabine Schaefer, Phillip Tomporowski, Richard Bailey Physical Activity and Educational Achievement: Insights from Exercise Neuroscience Routledge 2019 9780367233518 -

参考文献 / Readings

Sports Medicine, Journal of Applied Physiology, Medicine and Science in Sports and Exercise, Neuroscience Letters, Brain Research, Journal of Thermal Biology

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究所生履修不可

SW研究5（ウエルネスジェンダー学）

Studies in Sports Wellness 5(Wellness and Gender Studies)

ウエルネスジェンダー論

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN208

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーの視点からウエルネスについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられる健康問題、健康政策、健康教育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。

The goal is to learn the fundamentals for thinking about wellness from the perspective of gender, consider from the perspective of gender, topics such as health problems, health policy, and health education as seen from modern society, and develop your analytic skills.

授業の内容 / Course Contents

現代社会にはウエルネスをめぐる様々な問題がみられるが、ジェンダーに起因するものも少なくない。人々がより高次のウエルネスを追求するためには、ウエルネスをめぐる様々な事象についてジェンダーの視点からの問い直しが欠かせない。文献講読をし、議論をする中でウエルネスへの新たなアプローチを紹介する。

Various problems surrounding wellness are evident in modern society, and those stemming from gender are not

insignificant. For people to demand a higher level of wellness, various issues surrounding wellness need to be reevaluated from the perspective of gender. We will introduce new approaches to wellness through critical reading of the literature and debate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ジェンダー概念の検討（1）ジェンダー概念の登場
- 3回：ジェンダー概念の検討（2）ジェンダー概念の変遷
- 4回：ジェンダー概念の検討（3）今日的なジェンダー概念
- 5回：テキスト講読（1）
- 6回：テキスト講読（2）
- 7回：テキスト講読（3）
- 8回：テキスト講読（4）
- 9回：テキスト講読（5）
- 10回：テキスト講読（6）
- 11回：テキスト講読（7）
- 12回：テキスト講読（8）
- 13回：テキスト講読（9）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ジェンダーの視点からウェルネスについて日頃から考える習慣をつけてください。授業時間の関係上、授業で取り上げない章については自習をお願いします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート①:30% 中間レポート②:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

飯田貴子他編著 『よくわかるスポーツとジェンダー』 ミネルヴァ書房 2018 -

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究6（スポーツ栄養学）

Studies in Sports Wellness 6(Sport Nutrition)

グローバル時代のスポーツ栄養学

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN210

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

運動時の物質代謝とこれに伴う栄養要求の変化について、運動の種類や強度・時間を踏まえて理解し、栄養教育の理論と応用についても学ぶ。

Gain an understanding of changes to nutritional demands that follow from metabolism during exercise based on the type, intensity, and length of exercise, and learn about the theory and application of nutrition education.

授業の内容 / Course Contents

英語の研究論文の講読を通して、スポーツと栄養の関係をより深く学び、スポーツ現場で直面する実践的な課題についても議論していく。同時に海外のスポーツ栄養学の研究と普及の現状についても解説していく。受講生は栄養学の基本的知識を身につけていることと英文を読むのを苦にしない英語力を持っていることが望ましい。

We will learn more deeply about the relationship between sports and nutrition through critical reading of college-level European/U.S. textbooks and research papers in English, and we will discuss the practical issues facing

sports on the field and in the arena. We will also simultaneously explore the current state of research and dissemination of sports nutrition science overseas. Students should be familiar with the fundamentals of nutrition science and should be able to read English without much difficulty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、スポーツ栄養学の歴史
- 2回：スポーツ栄養学の基礎
- 3回：食事の基本（フードピラミッドと食事バランスガイド）
- 4回：エネルギー代謝とは
- 5回：炭水化物と練習・試合
- 6回：脂肪と体組成・ウエイトコントロール
- 7回：タンパク質と筋肉づくり
- 8回：ミネラルと骨・血液の健康
- 9回：ビタミン・抗酸化物質とコンディショニング
- 10回：水分補給と体温調節
- 11回：サプリメントとエルゴジェニック
- 12回：成長期と女性スポーツの注意点
- 13回：栄養アセスメント
- 14回：栄養教育

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の 2/3 は英文の訳のプレゼンのため予習が前提となり、1/3 は前週の内容の討論に充てるので復習も大事である。予習・復習に毎週約 5 時間を要する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

Rawson E et al Williams' Nutrition for Health, Fitness and Sport. 12th Ed. McGraw Hill 2019 -

参考文献 / Readings

International Journal of Sport Nutrition and Exercise Metabolism, Medicine and Science in Sports and Exercise.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語力、プレゼン能力

その他 / Others

https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9IYhVw

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究7（スポーツ医学）

Studies in Sports Wellness 7(Sports Medicine)

スポーツ医学、スポーツ外傷（Sports Medicine）

加藤 晴康（KATO HARUYASU）

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN212

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）初回および最終回の授業は対面授業とし、これ以外の授業は、原則としては、対面+オンラインのハイブリッドにて授業を行う。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ医学とは、医師など医療従事者が行う学問だけではなく、スポーツに関連した健康やパフォーマンス向上に関する研究も含まれる非常に広い分野の学問である。医学研究をベースに、さまざまな研究の問題点や研究プランニングを学ぶことを目標とする。

Sports medicine is not a field just practiced by medical practitioners such as doctors, but actually a very wide academic field that includes research into improving health and performance related to sports. The aim of this course is to learn about the various research problems and planning, using medical research as a base.

授業の内容 / Course Contents

受講者がスポーツ医学に関する任意のトピックスを選択し、バックグラウンドの説明のため、関連した研究論文（英文）の紹介を受講者が順番に行う。また、このトピックスに基づき、検討可能な研究テーマを作成し、議論する。

Students will select topics of their choice and then introduce related academic papers (English) in order to provide background explanation. Then, based on these topics, students will create a research theme for consideration and discuss it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：スポーツ医学研究のトピックス（外傷）
- 3回：スポーツ医学研究のトピックス（障害）
- 4回：現場に必要なスポーツ医学のトピックスを議論する
- 5回：医学的研究における結果から考察への検討方法について
- 6回：興味あるスポーツ医学分野を探る
- 7回：ケガは予防できるか？
- 8回：興味あるテーマに関する論文をプレゼンする（1）
- 9回：興味あるテーマに関する論文をプレゼンする（2）
- 10回：トップアスリートのメディカルサポート
- 11回：スポーツ医学についての興味あるテーマや論文について議論する（外傷）
- 12回：スポーツ医学についての興味あるテーマや論文について議論する（障害）
- 13回：治癒が長引くスポーツ外傷の問題点とは
- 14回：トピックスに関しての最終ディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習および復習に関して、授業中に課題を出すので、指定したオンライン授業支援システムへ提出すること。Students will be given preparation and review during each lecture. They should submit the assignment with the Canvas LMS.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業での発表:35% 授業中の議論、準備、参加:35% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

中嶋寛之 『新版 スポーツ整形外科学』 南江堂 2011 4524262652 -

授業履修にあたり、テキストの使用方法は授業内で説明する。したがって、事前にテキストを購入する必要は無い。

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究8（健康心理学）

Studies in Sports Wellness 8(Health Psychology)

修士論文の研究テーマについて、心理学などの異分野から検討を試みる。

遠藤 伸太郎 (ENDO SHINTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科
科目コード等： MN214
授業形態： オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項） 第1回は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 前期課程学生対象
2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、受講生のそれぞれの研究テーマについて心理学を始めとする異分野の側面から思考することで、新たな発見をしたりより広い視点からのアプローチを見出すことを目指す。

The aim of this class is to let students think about their research topics from the viewpoint of different fields, starting with psychology, to make new discoveries and uncover approaches with a broader mindset.

授業の内容 / Course Contents

各専門分野においては、それぞれ継承されてきた手法を用いて、ある枠の中で研究がなされるのが一般的である。しかしながら、異分野の視点を導入することで、新たな発見や思考方法を見出すことも少なくない。本講義では、受講者のそれぞれの研究テーマが心理学的事象とどのように関連するのか、あるいはどのような意義を有するのかについて、討論を通して学習する。内容は、講者の興味により臨機応変に対応する。

In specialized fields, the research methodology and frameworks are typically those that have been passed down within that field. However, it is not uncommon for new discoveries to be made or new ways of thinking to be

uncovered when perspectives from other fields are introduced. In this course, students will learn through discussion how psychological phenomena relate to their research theme and the significance of that relationship. Course content will be tailored to meet student interests as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：心理学研究の手法
- 3回：心理学研究の手法、倫理申請書の書き方
- 4回：各受講者の研究テーマの発表
- 5回：論文査読方法の説明
- 6回：心理学講義1（メンタルヘルスと心理）
- 7回：心理学講義2（スポーツと心理）
- 8回：心理学講義3（ライフスキルと心理）
- 9回：心理学講義4（価値観と心理）
- 10回：心理学講義5（生活習慣と心理）
- 11回：心理学講義6（人間関係と心理）
- 12回：日本語関連文献の発表
- 13回：英文関連論文の講読と発表
- 14回：これまでの講義内容の確認とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

杉原 保史他編 『公認心理師標準テキスト心理学的支援法』 北大路書房 2019 9784762830563 -

参考文献 / Readings

久保 拓弥 『データ解析のための統計モデリング入門ー』 岩波書店 2012 9784000069731

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究9 (バイオメカニクス)

Studies in Sports Wellness 9(Biomechanics)

バイオメカニクス

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN216

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 実験室で計測と分析を行うため、対面で6回実施する (7~12回目の授業)。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツや日常生活における身体動作に関するバイオメカニクス (生体力学) 分野の研究例を英文学術論文から学ぶとともに、バイオメカニクスの手法を用いて計測・分析する技術を習得する。

While learning research cases from the English academic literature in the biomechanics field, which is concerned with physical movements in sports and daily life, learn techniques for measuring and analyzing using biomechanics methodologies.

授業の内容 / Course Contents

バイオメカニクス分野の国際学術雑誌に掲載されている研究論文の抄読を行い、世界水準の研究について学ぶ。また、バイオメカニクスの研究手法に関する講義に加え、実際にモーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測、Excel およびプログラミングによる分析を行い、テクノロジーを活用した計測・分析手法を習得する。

You will read research papers published in international academic journals on the biomechanics field and study

about world-class research. In addition to lectures about research methods for biomechanics, you will use Excel and write programs to analyze body-movement data measured by a motion-capture system to learn about measurement and analysis methods using technology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究について，バイオメカニクスとは
- 2 回：バイオメカニクスの研究手法（ボール変形量と衝撃力の研究）
- 3 回：バイオメカニクスの研究手法（身体動作計測による研究）
- 4 回：バイオメカニクスの研究手法（工学的手法を用いた研究）
- 5 回：研究論文抄読（Clinical Biomechanics）
- 6 回：研究論文抄読（Journal of Biomechanics）
- 7 回：モーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測（VICON の説明）
- 8 回：モーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測（VICON の使用）
- 9 回：データ処理（VICON データのクリーニング）
- 10 回：データ処理（MATLAB によるデータ抽出）
- 11 回：Excel による分析（運動学的分析）
- 12 回：Excel による分析（運動力学的分析）
- 13 回：プログラミングによる分析（MATLAB による運動学的分析）
- 14 回：プログラミングによる分析（MATLAB による運動力学的分析）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。予習・復習に毎週約5時間を要する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

金子公宥・福永哲夫編 『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎』 杏林書院 2004年 8,250円
9784764410695

ゴードン ロバートソン他著／阿江通良監訳 『身体運動のバイオメカニクス研究法』 大修館書店 2008年
4,180円 9784469266535

上坂吉則著 『MATLAB プログラミング入門』 牧野書店 2011年 2,200円 9784434155918

— Journal of Biomechanics ELSEVIER 00219290

— Clinical Biomechanics ELSEVIER 02680033

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究10（スポーツ・運動心理学）

Studies in Sports Wellness 10(Sports and Exercise Psychology)

Sports and Exercise Psychology, Motivation

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN218

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） The first and last lessons will be conducted in the face-to-face mode. If the delivery mode will be changed, you will be informed about it via Canvas LMS.

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ・運動・教育場面において、やる気やパフォーマンスの向上、または行動変容を促す手法に関する論文を系統的に検証する方法を習得する。また、それらの手法の有効性を量的に検証する方法（メタ分析）を理解する。

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of sport and exercise psychology:

- Understand the recommended procedures and methods to review literature systematically,
- Conduct a systematic review and meta-analysis of empirical studies,
- Present the summary of the systematic review of the studies, and
- Write up a report of the systematic review of the studies.

授業の内容 / Course Contents

本授業の学習目標を達成するために必要となる知識と技能を幅広く紹介する。それらの知識・技能習得のた

め、受講生は各自の興味・関心のある研究題目について課題に取り組み、最終的に研究論文の系統的レビューのまとめを授業内で発表する。

This course is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to conduct systematic review and meta-analyses adequately. Students are required to identify a psychological technique or an intervention approach to enhance individual's motivation or performance or change their behaviors in the field of sport and exercise psychology. They will work on a systematic review of the effectiveness of the technique or intervention they are interested in.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to systematic reviews and meta-analyses of studies
- 2 回：Recommended procedures for systematic reviews
- 3 回：Recommended methods for systematic reviews
- 4 回：Systematic search of literature by using databases
- 5 回：Systematic reviews of the identified literature
- 6 回：On reporting the findings of the systematic reviews
- 7 回：The fundamental concept and knowledge of meta-analysis
- 8 回：Best practice guidelines in meta-analysis
- 9 回：Doing meta-analysis with software (Basic topics)
- 10 回：Doing meta-analysis with software (Advanced topics)
- 11 回：On reporting the findings of meta-analyses
- 12 回：Writing up a report of the systematic review
- 13 回：Writing up a report of the meta-analytic systematic review
- 14 回：Presentation of the systematic review and meta-analyses

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read recommended materials before attending lessons and work on assignments specified in the course.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Research-based learning tasks:20% Systematic review report:40% Presentation on systematic review:30% Positive learning contribution:10%

テキスト / Textbooks

Harrer, M., Cuijpers, P., Furukawa, T.A., & Ebert, D.D. Doing meta-analysis with R: A hands-on guide. Chapman & Hall/CRC Press 2021 -

参考文献 / Readings

Gunnell et al. (2022): Systematic review methods, International Review of Sport and Exercise Psychology, DOI: 10.1080/1750984X.2021.1966823

Hagger. (2022): Meta-analysis, International Review of Sport and Exercise Psychology, DOI:

10.1080/1750984X.2021.1

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究 11 (スポーツ方法学)

Studies in Sports Wellness 11(Performance Analysis)

スポーツ方法学、フィジカルコーチ学

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN220

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ方法学研究の現在を、主に、国際雑誌の論文などの文献から学びスポーツ方法学のスポーツウエルネスへの貢献を理解する。特にスポーツパフォーマンス分析や、競技種目に対するトレーニングやフィジカルチェック方法を取り上げ、実践的なスポーツ方法学研究手法を理解する。

Learn about the current state of sports methodology research mainly through reading literature such as academic research in international journals and understand the contributions of sports methodology to sports wellness. In particular we will look at training and physical check methods for sports performance analysis and competition events to understand practical sports methodology research techniques.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、国際雑誌の論文などの欧文を精読し内容を発表し、その後、各内容について、解説し議論する。

In this course, students will read academic papers in international journals and present their contents and then

interpret and discuss that content with the aim of supporting students' individual research activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・スポーツ方法学研究の手法
- 2回：スポーツパフォーマンス分析に関する文献誦読及び議論
- 3回：スポーツパフォーマンス分析
- 4回：スポーツ種目特性の理解に関する文献誦読及び議論
- 5回：スポーツ種目特性の理解
- 6回：フィジカルチェックに関する文献誦読及び議論
- 7回：フィジカルチェックの考え方
- 8回：体力トレーニングに関する文献誦読及び議論
- 9回：体力トレーニングの考え方
- 10回：種目特性に関する文献誦読及び議論
- 11回：種目特性に応じたフィジカルチェックとトレーニング
- 12回：フィジカルコーチの役割に関する文献誦読および議論
- 13回：フィジカルコーチの役割
- 14回：スポーツ方法学研究のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

Javier Mallo Team sports training -The complexity model- Routledge 2020 0367860708 -

参考文献 / Readings

Jens Bangsbo Aerobic and Anaerobic Training in Soccer: Special Emphasis on Training of Youth Players (Fitness Training in Football 1) Stormtryk 2007 8790170210

Jens Bangsbo Fitness Testing in Football(Fitness Training in Football 2) Stormtryk 2011 8799488000

Jens Bangsbo Power Training in Football: A Scientific and Practical Approach(Fitness Training in Football 3) Stormtryk 2013 8799488019

Jens Bangsbo Individual Training in Football(Fitness Training in Football 4) Bangsbosport 2014 9788799488025

Jens Bangsbo Nutrition in Football(Fitness Training in Football 5) Bangsbosport 2017 9788799488032

Jens Bangsbo Warm-up in Football: Optimize Performance and Avoid Injuries(Fitness Training in Football 6) Routledge 2021 0367675056

Paul Bradley FOOTBALL DECODED: Using Match Analysis & Context to Interpret the Demands

Independently published 2020 9798572156942

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究12 (分子細胞生物学)

Studies in Sports Wellness 12(Molecular Cell Biology)

分子生物学

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN222

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 初回は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ、健康に関係する分子生物学、細胞生物学および生化学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、ヒトの細胞内・体内で起きる現象の分子基盤について理解を深める。

Students will learn about topics in molecular biology, cell biology, and biochemistry related to sports and health from international journal articles and other literature and deepen their understanding of the molecular basis of phenomena that occur in the human cells and human body.

授業の内容 / Course Contents

本講義ではスポーツや健康に関する分子生物学、細胞生物学および生化学分野の、日本語または英語の文献や教科書を教材に学ぶ。加えて、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。

In this course, students will learn about molecular biology, cell biology, and biochemistry related to sports and health from literature and textbooks in English and Japanese. In addition, to support students' independent research activities, students will read review articles in international journals of their own choice, present the

contents, and then explain and discuss the contents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：生化学の手法
- 3回：分子生物学・細胞生物学の手法
- 4回：課題の読み方の説明
- 5回：生化学講義（糖の代謝）
- 6回：生化学講義（脂質の代謝）
- 7回：課題の発表1（生化学）
- 8回：分子生物学・細胞生物学講義（細胞内シグナル伝達）
- 9回：分子生物学・細胞生物学講義（筋肉）
- 10回：課題の発表2（分子生物学）
- 11回：英語総説文献の検索方法、選定
- 12回：分子生物学・細胞生物学講義（オルガネラ）
- 13回：分子生物学・細胞生物学研究の実際
- 14回：英語総説文献発表およびディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題発表および英語総説文献発表のために各自準備が必要である。

Students should prepare for the presentation of their assignments and the presentation of the review articles written in English.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内提出物:30%

テキスト / Textbooks

B.Alberts et al. Molecular Biology of the Cell GARLAND SCIENCE 2022 9780393884852 -
 Donald Voet et al. Principles of Biochemistry Wiley 2018 1119451663 -

参考文献 / Readings

Zsolt Radak The Physiology of Physical Training Elsevier 2018 9780128151372

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC Zoom

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究13（スポーツマネジメント）

Studies in Sports Wellness 13(Sport Management)

スポーツマネジメントに関する専門的で総合的な学術的基盤を構築する

ライター（LEITNER KATRIN J.）

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN224

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 1回目と14回目は対面実施の予定。詳細は授業開始前までに「Canvas LMS」にてお知らせする。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

欧米諸国を中心とした海外のスポーツ組織とそのマネジメント手法を日本と比較し、日本的スポーツマネジメントの特徴や課題について学ぶとともに、スポーツマネジメントの基礎理論および国際的課題について理解を深める。

This course will examine characteristics and issues of Japanese-style sport management from a comparison with foreign sport organizations and its management methods. Students will deepen the understanding of basic theory in sport management and learn about its issues in an international context.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、国内外の様々なスポーツ現場におけるマネジメントの実践例を取り上げ、グローバルな視点から日本的スポーツマネジメントの現状や課題について検討する。さらに、スポーツマネジメントの基礎理論を解説するとともに、国際雑誌の研究論文などを精読し、発表および討論を通してスポーツマネジメントの国際的

課題について考究する。

Using practical examples of management at various sport sites in Japan and foreign countries, this course tries to examine the current situation and issues of Japanese sport management from a global perspective. Furthermore, accompanied by explanation about basic theoretical concepts of sport management, students will review research papers from international journals and examine various issues in global sport management through presentation and discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスとスポーツマネジメント概論
- 2 回：国際比較の視点からスポーツマネジメント研究を考える
- 3 回：スポーツマネジメント研究の手法：質的研究
- 4 回：スポーツマネジメント研究の手法：量的研究
- 5 回：国際比較研究の方法と解析
- 6 回：テーマ①：スポーツ組織とマネジメント
- 7 回：テーマ①と関連する課題文献査読の発表&討論
- 8 回：テーマ②：米国におけるスポーツ組織とマネジメント
- 9 回：テーマ②と関連する課題文献査読の発表&討論
- 10 回：テーマ③：欧州におけるスポーツ組織とマネジメント
- 11 回：テーマ③と関連する課題文献査読の発表&討論
- 12 回：テーマ④：日本におけるスポーツ組織とマネジメント
- 13 回：テーマ④と関連する課題文献査読の発表&討論
- 14 回：まとめ：グローバルスポーツマネジメントの展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】

- 1) 発表者：論文の要約と議論や疑問点等について発表準備
- 2) 発表者以外：各回の文献を読み込んで、討論の準備

【復習】

- 1) 発表者：授業時の討論や議論をまとめレポートを作成

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:30% 授業における討論:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

Eric W, MacIntosh et al. International Sport Management (2nd Edition) Human Kinetics 2020
9781492556787 -

参考文献 / Readings

Leigh Robinson et al. Routledge Handbook of Sport Management Routledge 2012

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

主に英語文献を読解するため、ある程度の英文読解力が求められる。

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究14 (トレーナー科学)

Studies in Sports Wellness 14(Trainer Science)

トレーナー科学

後関 慎司 (GOSEKI SHINJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN226

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 初回授業は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

トレーナー科学、トレーニング科学分野に関わる研究手法を国内外の論文から学び、その研究手法などを理解することで、自身の研究活動に生かすことができるようになること。

The students will be able to understand the research methods related to the fields of trainer science and training science from domestic and international researches, so as to be able to apply them to one's own research activities.

授業の内容 / Course Contents

本講義は受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生自身が国際雑誌の論文を精読し、その内容について発表する。

In this lecture, for the purpose of supporting the students' voluntary research activities, the students themselves carefully read the papers of international journals and present their contents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：スポーツ現場と科学研究の関係性①
（予防の重要性）
- 3回：文献調査①（予防について）
- 4回：グループディスカッション（まとめ）
プレゼンテーションスキル（スライド作成）
- 5回：プレゼンテーションスキル（発表）グループ
- 6回：スポーツ現場と科学研究の関係性②
（利己・利他）（短期的視野・長期的視野）
- 7回：文献調査②（利己・利他）（短期的視野・長期的視野）
- 8回：グループディスカッション（まとめ）
プレゼンテーションスキル（スライド作成）
- 9回：プレゼンテーションスキル（発表）グループ
- 10回：スポーツ現場と科学研究の関係性③
（部分最適・全体最適）
- 11回：文献調査③（部分最適・全体最適）
- 12回：プレゼンテーションスキル（スライド作成）
- 13回：プレゼンテーションスキル（発表）（質疑応答）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で発表される文献を事前に必ず読み、疑問点や討論したい内容等を予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業内でのディスカッション:30% 授業内での発表:40%

テキスト / Textbooks

ピーター・オドノヒュー 著 中川昭 監訳 橘肇 訳 長谷川悦示 訳 『スポーツパフォーマンス分析入門—基礎となる理論と技法を学ぶ』 大修館書店 2020 9784469268843 -

日本スポーツ協会 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト』 財団法人日本スポーツ協会 -

参考文献 / Readings

臨床スポーツ医学編集委員会 『スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第2版』 文光堂 2015
9784830651823

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究15 (データサイエンス)

Studies in Sports Wellness 15(Data Science)

データサイエンス、スポーツデータ分析

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN228

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 2~3回を必ず対面授業で行います。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスが解決する主な課題やスポーツにおける応用事例を学び、データサイエンスの課題解決の方法論に関する理解を深める。また、データサイエンス的課題解決力の向上を図る。

This course covers major problems in data science as well as applied use cases in sports science. Students will learn the basic problem-solving methods using data science approaches. Students will also cultivate problem solving skills by applying the methods to their topic of interest in sports science.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題とそれらを解決するデータサイエンスの手法を学ぶとともに、スポーツにおける応用事例についても理解を深める。また、受講者が自ら選択したテーマについて、データサイエンスの手法を活用した課題解決アプローチを考案し、その内容を発表、議論する。

This course will provide you knowledge regarding data science-based problem-solving skills. During this semester, you will learn (1) major data science problems, (2) and data science methods to solve such problems, (3) applied use cases in sports science. In addition, you will choose one topic in sports science that can apply data

science approaches, present your ideas to the entire class, and discuss your ideas with classmates.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：一般的なデータ分析プロセス
- 3回：分析ユースケース定義、データ分析事例
- 4回：データ前処理技術の基礎
- 5回：統計学の基礎
- 6回：探索的データ分析
- 7回：機械学習の基礎（1）
- 8回：機械学習の基礎（2）
- 9回：機械学習の事例
- 10回：スポーツ分野におけるデータサイエンスの応用事例
- 11回：選択テーマの調査結果発表とディスカッション
- 12回：AI を利用したアプリケーション開発
- 13回：機械学習の応用：集団学習
- 14回：ニューラルネットワークと大規模言語モデル

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表（3回予定）:80% 演習課題:10% 積極的な授業への参加:10%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本講義では基本的な PC でのファイル操作（ファイルのコピーやペースト、ファイルの圧縮や解凍など）や基本的な Google Drive の操作方法（Google Drive 上のフォルダ・ファイル操作、ファイルのコピー・共有など）、Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）の操作方は習得していることを前提とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出には PC での作業が必須となります。個人の PC を持参することを強く推奨します。あるいはメディアセンターより PC を借りるようになさってください。

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究16（ウェルネス科学）

Studies in Sports Wellness 16(Wellness Science)

「よりよい生き方」とは何か

濁川 孝志 (NIGORIKAWA TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウェルネス学研究科
科目コード等： MN230
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 前期課程学生対象
2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

ウェルネスとは何かを理解し、人間が生きることの意味について、映画『ガイアシンフォニー』と写真家『星野道夫』を題材として考察する。それを前提に、自分自身の「ウェルネス観」を構築することを目標とする。

This course aims to deepen the understanding of wellness by examining the meaning of human life using the movie "Gaia Symphony" and materials of the photographer "Michio Hoshino". Based on this premise, students aim to construct their own "view of wellness".

授業の内容 / Course Contents

映画『ガイアシンフォニー』は、ガイア理論、すなわち“地球は一つの生命体である”という考え方をベースに作成されたドキュメンタリー映画であり、環境問題や人間の精神性に関心を寄せる人たちのバイブル的存在となっている。また、『星野道夫』の写真や文章も、環境問題や人の精神性を考えるうえで、とても重要な示唆を与えてくれる。本授業では、この2つを題材として、“よりよく生きる”ことを前提とし、“自然環境と人間の在り方”、“生き方の多様性”などの点について議論する。

The movie "Gaia Symphony" is a documentary film based on the Gaia theory, which is the idea that the earth is one living organism, and has become a bible for those who are interested in environmental issues and human spirituality. Further, the photographs and writings of "Michio Hoshino" also provide very important insights into environmental issues and human spirituality. Using these materials, this course will discuss topics like "the state of the natural environment and human beings" and "the diversity of ways of life" based on the premise of "living better".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業全体のオリエンテーション。自己紹介。
- 2 回：環境問題の現状に関して
- 3 回：星野道夫とウエルネス：生き方
- 4 回：星野道夫とウエルネス：価値観
- 5 回：星野道夫とウエルネス：スピリチュアリティへの眼差し
- 6 回：映画『ガイアシンフォニー』より星野道夫：ビル・フラワー
- 7 回：映画『ガイアシンフォニー』より星野道夫：ボブ・サム
- 8 回：映画『ガイアシンフォニー』より星野道夫：シリアハンター、ドン・ロス
- 9 回：映画『ガイアシンフォニー』より名嘉睦稔
- 10 回：映画『ガイアシンフォニー』よりケリー・ヨスト
- 11 回：映画『ガイアシンフォニー』よりナイノア・トンプソン
- 12 回：ウエルネスを見つめて：種と生活
- 13 回：ウエルネスを見つめて：言葉の持つ力
- 14 回：ウエルネスを見つめて：全ての人に星空を

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での発言:60% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

濁川孝志 『ガイアの伝言』 でくのぼう出版 2020 9784434272998 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の順番は多少変わる可能性があります。

ゲストスピーカーをお呼びして、授業の理解を深める予定です。

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究17（アダプテッド・スポーツ）

Studies in Sports Wellness 17(Adapted Sports)

アダプテッドスポーツ（Adapted Physical Activities）、障がい者スポーツに関わる自然科学的、人文社会学的思考の試み

田中 信行（TANAKA NOBUYUKI）

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN232

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

障がいのある人や加齢により身体的虚弱になった人にとって、身体運動はどのような意義をもつのか・・・という問いに対して、簡単な研究的演習を通して、履修された人と共に取り組み、いくつかの指標を確認することを目標とします。

The aim of this course is to confirm with several indexes to what extent physical exercise is meaningful to people with disabilities and people whose physical strength has degraded due to old age, employing a simple research-style seminar along with your fellow classmates.

授業の内容 / Course Contents

身体の一部に障がいがある人たち（虚弱高齢者等を含む）にとって身体運動がどのような意味をもつのか、実際の運動プログラムにはどのようなものがあるのかを検討します。また現在のパラリンピックなどの障がい者スポーツの現状と課題についても、履修された皆さんの意見を聞きながら、演習的にその内容を検討しま

す。

We will consider what meaning physical exercise has for people who have a disability somewhere (including the elderly infirm) and what kind of exercise programs are in use. We will also consider research material, seminar style and hearing contributions from all students, concerning the current state and issues of sports, such as the Paralympics, for those with physical disabilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：・授業ガイダンス
・現在の研究予定の（各自）紹介
- 2回：・視覚情報の違いが歩行距離に及ぼす影響の検討
（長めの物差しが必要）
- 3回：・2. の分析
- 4回：・片脚・両脚でのパフォーマンス比較
（長座位になれる環境、テニス等ボールが必要）
- 5回：・4. の分析
- 6回：・姿勢を変えての左右手間のボールキャッチ
（仰臥位になれる環境、テニス等ボールが必要）
- 7回：・6. の分析
- 8回：・アダプテッドスポーツ対象者を対象とした先行研究紹介
例：脊髄損傷者、下肢切断者の体力を捉える
- 9回：・アダプテッドスポーツ対象者を対象とした先行研究紹介
例：一般校(特別支援学校以外の)体育授業における障がい児への合理的配慮
- 10回：・アダプテッドスポーツ対象者を対象とした先行研究紹介
例：パラスポーツ経験と障がいの理解
- 11回：・質的研究、テキストマイニングの準備(KHcoder 使用)Windows PC を準備ください。
- 12回：・アダプテッドスポーツに関連するアンケート分析
例：オリンピック以上の Performance を記録したパラリンピアンへのオリンピック参加の是非
- 13回：・アンケートによる自由筆記／インタビュー内容の分析
- 14回：・ディスカッション
・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

可能な限り、簡易な実験を行い、その結果を含めた Data の処理を Excel で行うようにします。そのため、自らの研究分野に関わらず Excel の操作ができるようにしておいてください。この操作は、研究以外でも使用できる能力にも使用できます。なお、授業内でできなかったものは、授業時間外で処理できるようにしておいてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実験の実施:10% 実験・調査結果の分析・発表:30% 授業における討論:30% 課題レポート:30%

授業の進展毎に課題を提供します。その課題に取り組んでください。詳細は、授業ガイダンスで説明します。

テキスト / Textbooks

日本アダプテッド体育・スポーツ学会 『アダプテッド・スポーツ科学』 市村出版 2004 21897743 - 配布資料は、前述書籍などを基準として必要な内容を準備します。また授業中などに作成したデータ資料も使用します。

参考文献 / Readings

The Official Journal of the International Federation of Adapted Physical Activity Adapted Physical Activity Quarterly IFAPA 2021 07365829

その他、必要に応じて参考文献等を紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Microsoft Excel を多用します。

履修に当たっては、その操作に慣れておいてもらえると助かります。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンが必要となります。

特に 11 から 14 回目は、Windows の PC が必要になりますので、準備下さい。

その他 / Others

可能な限り、Paperless による授業を予定しています。そのため、履修者と教員とでメールによる連絡をします。(教員のメールアドレス： 5550307@rikkyo.ac.jp)

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象/2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究18（スポーツメディア）

Studies in Sports Wellness 18(Sport and Media)

スポーツの価値と社会について考える～五輪・パラリンピックとメディアの視点から
(The Value of Sport and the Society)

結城 和香子 (YUKI WAKAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN234

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

心と体を動かすという意味での、広義のスポーツをどう評価し生かすかは、私たちの社会の未来にも深く関わる。スポーツがもたらす社会変化や課題の実例を取りつつ、多面的に考察する視点を養う。

Social awareness of the value of Sport, in its broader sense of how we activate our mind and body, could have profound significance to our future. This course aims to cultivate a balanced view on what is the social value of sport for us, using current/historical events as case studies.

授業の内容 / Course Contents

五輪・パラリンピック等が触媒としてもたらしてきた社会変化をメディアの視点から検証し、スポーツの力とは何かの具体的考察を、論議や発表も交えて行う。

This course will evaluate the 'value of sport' from journalistic point of view, using practical cases and their social impacts taking the Olympic and Paralympic Games as example. Students are encouraged to take part in the

debates and give presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：総論 スポーツの力とは
- 2回：2024年パリ大会①国際的分断の中での「新時代の五輪」
- 3回：2024年パリ大会②パラリンピックの挑戦
- 4回：2020年東京大会が残した正負のレガシー
- 5回：パラリンピック運動の本質～歴史的俯瞰と理念
- 6回：パラリンピックと社会へのレガシー
- 7回：オリンピック運動の本質～歴史的俯瞰と理念
- 8回：オリンピックと社会へのレガシー
- 9回：スポーツを蝕むもの① ドーピングの深淵
- 10回：スポーツを蝕むもの② 招致疑惑とカネ
- 11回：スポーツを蝕むもの③ 政治的圧力
- 12回：スポーツの力 討論1 「違い」を超える
- 13回：スポーツの力 討論2 国際社会の課題とスポーツ
- 14回：総括 スポーツの価値をどう生かすか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

記事を含む文献を読み、次回授業で指定された主題について考察する。また、自身の体験を踏まえたスポーツの価値についてまとめ、発表する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表及び討論参加度:40% リアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Olympic Charter, IOC Fact Sheets/ IPC Annual Report

参考文献 / Readings

読売新聞取材班 『報道記録 東京2020オリンピック・パラリンピック』 読売新聞社 2022

Bylined articles from The Yomiuri Shimbun

注意事項 (検索結果画面)

前期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究生履修不可

SW研究19（環境教育）

Studies in Sports Wellness 19(Environmental Education)

生物多様性と現代社会、そして私たちの暮らし

鹿熊 勤 (KAKUMA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN236

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

「SDGs」「環境共生型社会」「人新世」といった言葉が政治経済の表舞台に登場するようになった。これらは環境をないがしろにしてきた経済活動への反省であり、人と自然の関係性に新たな模索が必要になったという共通認識にほかならない。そこで想起されている「自然」とは生物多様性に象徴される「生態系」のことだが、多くの現代人にとって自然は抽象的な存在である。SDGs、環境共生型社会の実現を“口先”だけのものにしないうちに、私たちの日々の暮らしやその選択を生物多様性の視点で振り返り、自然に対する科学的・社会的なリテラシー

Terms such as "SDGs," "environmentally symbiotic society," and "anthropocene" have come to appear on the front stage of political economy. These are reflections on economic activities that have neglected the environment, and are nothing but a common understanding that a new search is needed for the relationship between humans and nature. The "nature" recalled there is an "ecosystem" symbolized by biodiversity, but for many people in modern society, nature is an abstract existence. In order not to make the realization of the SDGs and an environmentally symbiotic society only empty words, we have to look back on our daily lives and choices

from the perspective of biodiversity, and concretely raise our scientific and social literacy for nature.

授業の内容 / Course Contents

とかく縁遠いと思われがちな「生物多様性」は、じつはとても身近な問題であり、その未来は私たちの暮らしの選択に大きく左右される。自然環境を取り巻く課題をさまざまな角度から考察することで、人間活動と環境の現状、持続可能性の真の意味を議論し、理想的な社会システムのありようについて考察する。

"Biodiversity," which is often thought to be a distant issue, is actually a very familiar problem, and its future depends greatly on our lifestyle choices. By considering issues surrounding the natural environment from various viewpoints, this course will discuss the current state of human activities and the environment, the true meaning of sustainability, and consider an ideal social system.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：生物多様性と持続可能性

Biodiversity and sustainability

2 回：人は自然をどのように利用してきたか（狩猟採集時代の痕跡から）

How people have used nature

Traces from the hunter-gatherer era

3 回：人は自然をどのように利用してきたか（日本列島の里山と文化の視点から）

How people have used nature

From the perspective of Satoyama and culture of the Japanese archipelago

4 回：食糧生産の現状 1（有機農業と土壌生態系）

Current status of food production 1

Organic agriculture and soil ecosystem

5 回：種子と生命（遺伝資源の過去・現在・未来）

Seeds and life

Past, present and future of genetic resources

6 回：食糧生産の現状 2（漁業と持続的資源管理）

Current status of food production 2

Fisheries and sustainable resource management

7 回：生物多様性を守る 1（生息域と個体数管理の現状）

Protect biodiversity 1

Status of habitat and population management

8 回：生物多様性を守る 2（外来種問題の現状）

Protect biodiversity 2

Current status of alien species problem

9 回：アニマルライツとアニマルウェルフェア（生命倫理の現在）

Animal rights and animal welfare

Current state of bioethics

10 回：公害と環境破壊

Pollution and environmental damage

11 回：再生可能エネルギーを検証する

Verify renewable energy

12 回：消費行動と環境共生型社会

Consumer behavior and an environment-friendly society

13 回：自然教育、環境教育の今

Current state of nature education and environmental education

14 回：総合討議

General debate

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

SDGs / 環境共生型社会 / 持続可能性 / 人新世 / グリーン経済 / エネルギー / 生物多様性などのワードについて日ごろから関心を持ち調べておくこと。毎回の授業ごとに各自復習し、学んだことを翌週の授業冒頭で述べる。

Be interested in and research keywords such as SDGs/environmentally symbiotic society/sustainability/Anthropocene/green economy/energy/biodiversity on a

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度及びコメントペーパーの内容:50% 議論における発言の論理性:20%
最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

ジェイン・ジェイコブス 『経済の本質』 日本経済新聞社 2013 9784532197018 -

宮永健太郎 『持続可能な発展の話』 岩波書店 2023 9784532197018 -

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究20（スポーツマンシップ、産業）

Studies in Sports Wellness 20(Sportsmanship, Sports Industry)

スポーツマンシップ、スポーツ産業(Sportsmanship, Sports industry)

中村 聡宏 (NAKAMURA AKIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN238

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 第1回講義は対面で実施することを予定する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツマンシップ・スポーツ産業に関して、論文・書籍などの文献や、関わるビジネスパーソン・アスリートなどからのインタビューを通して学び、スポーツの本質的価値や産業活性化に向けた多角的視点からの知見について理解を深め、スポーツ界をはじめ社会全体に貢献すべく理論化と実践を図る。

Students will learn about sportsmanship and the sports industry from literature such as articles and books, as well as interviews with businesspeople and athletes involved in the industry. They will deepen their understanding of the intrinsic value of sports and knowledge from multiple perspectives toward the revitalization of the industry, and theorize and put into practice ways to contribute to the sports world and society as a whole.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、スポーツマンシップ・スポーツ産業・哲学などに関する教科書・文献を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ論文・文献などの精読や、インタビューを実施し、それらに基づく研究内容を発表し、その内容について議論する。

In this lecture, students will learn from textbooks and literature on sportsmanship, sports industry, philosophy, etc. In addition, to support their independent research activities, students will read articles and literature of their own choice, conduct interviews, present the contents, and then explain and discuss the contents of their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：スポーツマンシップ研究の手法
- 3回：スポーツ産業研究の手法
- 4回：プラトン哲学を読む
- 5回：論文査読方法の説明
- 6回：スポーツマンシップ理論講義
- 7回：課題論文査読の発表（1）
- 8回：スポーツビジネス理論講義
- 9回：課題論文査読の発表（2）
- 10回：スポーツビジネス実務講義（ゲストスピーカー）
- 11回：ケースディスカッション（1）
- 12回：ケースディスカッション（2）
- 13回：プレゼンテーション・ディスカッション（1）
- 14回：プレゼンテーション・ディスカッション（2）・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後、履修者に対して都度別途行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

中村聡宏 『スポーツマンシップバイブル』 東洋館出版社 2020 9784491039732 ○

参考文献 / Readings

阿部生雄 『近代スポーツマンシップの誕生と成長』 筑波大学出版会 2009 9784904074091

広瀬一郎 『スポーツ・マネジメント ー理論と実務』 東洋経済新報社 2009 9784492501948

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究 21（スポーツ文化と教育）

Studies in Sports Wellness 21(Sport Culture and Education)

スポーツ文化と教育の未来を考えてみよう

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN240
授業形態：	オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項）	第14回は対面で実施する
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG5210
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ文化と教育の問題に関わって、主に体育学を中心に社会学、教育学の分野融合的な基礎的知識を、文献、論文等を精読することで学ぶとともに、具体的な問題に向けての知識の活用について報告をまとめ議論することから、求められる専門的な資質や能力を育む。

Students will learn the basic knowledge of the field-integrated sociology and pedagogy, mainly physical education, related to issues of sports culture and education, through close reading of literature and articles, etc. They will also develop the required professional qualities and abilities by compiling reports and discussing the application of knowledge toward specific issues.

授業の内容 / Course Contents

文化と教育は、日常生活の中であって、鶏と卵のような循環的な関係をなしている。スポーツを、このような文化と教育が循環的な関係の中で構築される一つの社会事象だと考えたときに、そこには、社会の現在と未来、スポーツと人間の関係の現在と未来が映し出される。このような課題意識に基づいて、文献、論文を読み合い議論することを通して、実践と理論が循環する生きた知識を習得する。

Culture and education have a cyclical relationship in daily life, like the chicken and the egg. When we consider sport as a social phenomenon constructed in this cyclical relationship between culture and education, it reflects the present and future of society, and the present and future of the relationship between sport and people. Based on this awareness of the issues, I would like to share our knowledge of the circulation of practice and theory through reading and discussing literature and articles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション -講義の進め方、学び方について
- 2回：インターネットから検索した記事を共有しよう①-教育に焦点づけて-
- 3回：インターネットから検索した記事を共有しよう②-スポーツに焦点づけて-
- 4回：インターネットから検索した記事を共有しよう③-社会に焦点づけて-
- 5回：論文を読んで議論してみよう①-教育に焦点づけて-
- 6回：論文を読んで議論してみよう②-スポーツに焦点づけて-
- 7回：論文を読んで議論してみよう③-社会に焦点づけて-
- 8回：スポーツと教育について、外部ともつながってワークショップを行なってみよう①
- 9回：文献を読んで議論しよう①-体育学・スポーツ科学領域-
- 10回：文献を読んで議論しよう②-教育学領域-
- 11回：文献を読んで議論しよう③-社会学領域-
- 12回：文献を読んで議論しよう④-文化論領域-
- 13回：文献を読んで議論しよう⑤-総合領域-
- 14回：スポーツと教育について、外部ともつながってワークショップを行なってみよう②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告のための予習を定期的に指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テーマごとの報告:40% ワークショップの準備と評価:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

松田恵示 『「遊び」から考える体育の学習指導』 創文企画 2016 9784864130844 -
講義中に指示する

参考文献 / Readings

井上 智洋 『人工知能と経済の未来』 文藝春秋 2016 9784166610914
講義中に指示する

注意事項 (検索結果画面)

前期課程学生対象

SW研究22（アスレティックトレーニング）

Studies in Sports Wellness 22(Athletic Training, Conditioning)

アスレティックトレーニング学、コンディショニング

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN242
授業形態：	オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項）	オンライン（一部対面：3回ほど対面にて実施予定）
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG5110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツに関する研究手法を国内外の論文から学び、その研究手法などを理解することで自身の研究活動に活かすことができるようになること。

This course aims to study sports-related research methods from domestic and foreign papers, and to be able to use it in your own research activities by understanding the research methods.

授業の内容 / Course Contents

本講義は受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、国際誌の論文を精読し、内容発表を行う。また、自身の研究に関する発表も行い、プレゼンテーションのスキルアップも図る。さらに、スポーツ現場の見学を行い、現場における研究課題の探求を行う。

Through this course, the students are expected to read the dissertation of the international journals and present the contents in order to support the student's voluntary research activities. In addition, the students will make presentations on their research so that they may improve their presentation skills. In addition, tour sports sites and explore research topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・スポーツ科学における研究手法
- 2回：自身の研究概要発表
- 3回：プレゼンテーションスキル
- 4回：批判的レビュー
- 5回：スポーツ傷害予防に向けたコンディショニング
- 6回：パフォーマンス向上に向けたコンディショニング
- 7回：コンディショニングに関わる情報（オーバートレーニング）
- 8回：コンディショニングに関わる情報（睡眠、メンタルトレーニング）
- 9回：動作の観察と分析
- 10回：下肢の外傷・障害
- 11回：上肢の外傷・障害
- 12回：頭頸部・体幹の外傷・障害
- 13回：スポーツ現場における研究課題の探求
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で発表される文献を事前に必ず読み、疑問点や討論したい内容等を予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および準備:90% 学期末発表:10%

テキスト / Textbooks

授業内で適宜配布する。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究 23 (抗加齢医学、時間医療科学)

Studies in Sports Wellness 23(Anti-Aging Medicine, Chrono-Medical Science)

抗加齢医学、時間医療科学

服部 淳彦 (HATTORI ATSUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN244

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 最初と最後の回は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

生命現象を分子レベルの視点から様々な切り口でとらえ、そこから得られる情報を理解し、各々の研究活動に役に立つだけでなく、新しい研究領域に取り組む動機づけになることを目標とする。

The purpose of this course is to understand life phenomena from various viewpoints at the molecular level, and to use the information obtained in this way in our own research activities.

授業の内容 / Course Contents

分子生物学や構造生物学の発展により、生命現象が分子レベルでとらえられるようになってきた。特に 21 世紀に入ってから、時間医療科学 (時間生物学)、宇宙生命科学、抗加齢医学などといった様々な学問の融合領域が盛況になり、研究対象が同じ物質や同じシステムであっても、時間領域や空間領域の見方が異なれば、研究アプローチの仕方も異なってくる。そこで、担当教員の専門分野である時間医療科学 (時間生物学) や抗加齢医学を切り口に、分子生命科学の基礎とその応用を紹介する。

With the development of molecular biology and structural biology, life phenomena have come to be understood at the molecular level. In particular, since the beginning of the 21st century, the fusion of various disciplines,

such as chrono-medical science (chronobiology), astrobiology, and anti-aging medicine, has been flourishing. Therefore, this lecture will introduce the fundamentals of molecular life science and its applications with a focus on chronobiology and anti-aging medicine.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：時間医療科学・時間生物学とは？
- 2 回：生命が示すリズム現象（秒単位から 100 年単位のリズム）
- 3 回：生物が持つ概日（サーカディアン）リズム
- 4 回：概日時計の性質
- 5 回：ヒトにおける概日時計の存在部位
- 6 回：時計遺伝子とそのメカニズム
- 7 回：概日時計のシグナル伝達物質：メラトニン
- 8 回：メラトニンと睡眠・記憶
- 9 回：寿命と老化と宇宙
- 10 回：運動器における老化とその対策
- 11 回：感覚器における老化とその対策
- 12 回：老化の原因遺伝子
- 13 回：老化の原因物質：フリーラジカルと活性酸素と糖化
- 14 回：高齢者と宇宙飛行士の健康を支えるメラトニン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 個人の発表内容:50% 出席および授業参加度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

服部淳彦 『メラトニンとエイジング』 比較生理生化学 2017 年 34 巻 01

日本抗加齢医学会 『アンチエイジング医学の基礎と臨床』 メディカルビュー社 2023 年

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自然科学や研究に対して興味がある学生

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC

注意事項（検索結果画面）

前期課程学生対象

SW研究 24 (ウェルネス医学)

Studies in Sports Wellness 24(Wellness Medicine)

土肥 美智子 (DOHI MICHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウェルネス学研究科
科目コード等： MN246
授業形態： オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項） オンライン（一部対面、対面は2回を予定）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 前期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

ウェルネスについて様々な組織の取り組みや政策について学び、その中でウェルネス医学の役割について理解する。更に、得られた知見や自身の考えを学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

Learn about the initiatives and policies of various organisations on wellness and understand the role of wellness medicine in this context. Furthermore, students will be able to link their findings and their own ideas to conference presentations and writing papers.

授業の内容 / Course Contents

本講義では日本語または英語のウェルネスに関する文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。更に、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

In this course, in addition to learning from literature and textbooks on wellness in Japanese and English, students read review articles in international journals of their own choice, present the contents, and then explain and discuss the contents in order to support their independent research activities. The students will also be given advice on conference presentations and the writing of papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・ウエルネスとは
- 2回：厚生労働省の取り組みについての発表および議論
- 3回：一般社団法人日本ウエルネス協会の取り組みについての発表および議論
- 4回：世界保健機構の取り組みについての発表および議論
- 5回：国際オリンピック委員会の取り組みについての発表および議論
- 6回：ユネスコの取り組みについての発表および議論
- 7回：ウエルネスと医療についての発表および議論
- 8回：ウエルネスとメンタルヘルスについての発表および議論
- 9回：ウエルネスとウエルビーイングの違いについての発表および議論
- 10回：ウエルネスと介護についての発表および議論
- 11回：女性のウエルネスについての発表および議論
- 12回：ウエルネスとSDGsについての発表及び議論
- 13回：ウエルネスと地域社会での取り組みについての発表及び議論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業で発表する内容を事前に調べ、発表をできるようにして授業に臨むこと

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表および討論参加:100%

テキスト/Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを活用したプレゼンテーション

注意事項(検索結果画面)

前期課程学生対象

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN600
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2回：問題意識の確認
- 3回：問題意識の深掘
- 4回：問題意識のまとめ
- 5回：研究方法の検討(研究時期)
- 6回：研究方法の検討(研究対象)
- 7回：研究方法の検討(研究手法)
- 8回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11回：問題意識の絞り込みの確認
- 12回：問題意識の絞り込みの完成
- 13回：研究テーマの絞り込み
- 14回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN601
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN602
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2回：問題意識の確認
- 3回：問題意識の深掘
- 4回：問題意識のまとめ
- 5回：研究方法の検討(研究時期)
- 6回：研究方法の検討(研究対象)
- 7回：研究方法の検討(研究手法)
- 8回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11回：問題意識の絞り込みの確認
- 12回：問題意識の絞り込みの完成
- 13回：研究テーマの絞り込み
- 14回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN603
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN604
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN605
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN606
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN607
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN608
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN609
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN610
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2回：問題意識の確認
- 3回：問題意識の深掘
- 4回：問題意識のまとめ
- 5回：研究方法の検討(研究時期)
- 6回：研究方法の検討(研究対象)
- 7回：研究方法の検討(研究手法)
- 8回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11回：問題意識の絞り込みの確認
- 12回：問題意識の絞り込みの完成
- 13回：研究テーマの絞り込み
- 14回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN611
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 1

Seminar for Master's Thesis 1

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN612
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。

In preparation for writing a master's thesis, students will develop a research theme and clarify the necessary research methods.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 1 は、1 年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of

reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. Seminar for master's thesis 1 is a course offered in the fall semester of the first year, and the main content of the guidance is the setting of research themes and the selection of research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・研究倫理上の手続きについて
- 2 回：問題意識の確認
- 3 回：問題意識の深掘
- 4 回：問題意識のまとめ
- 5 回：研究方法の検討(研究時期)
- 6 回：研究方法の検討(研究対象)
- 7 回：研究方法の検討(研究手法)
- 8 回：論文執筆のデータ収集法(基礎)
- 9 回：論文執筆のデータ収集法(応用)
- 10 回：論文執筆のデータ収集法(まとめ)
- 11 回：問題意識の絞り込みの確認
- 12 回：問題意識の絞り込みの完成
- 13 回：研究テーマの絞り込み
- 14 回：研究テーマの確定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN700
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN701

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN702
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1 本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2 本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3 本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN703
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN704
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN705
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN706
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN707
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN708
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN709

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN710
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN711

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 2

Seminar for Master's Thesis 2

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN712
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、先行研究資料の収集と論文の骨子を形作る。

Gather pre-research materials and set down the framework of a thesis paper.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 2 は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, students are mainly instructed to collect materials from previous studies and to prepare the framework of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究の中心的テーマの確認
- 3回：研究の中心的テーマの確認、発表
- 4回：先行文献の収集と報告(1本目)
- 5回：先行文献の収集と報告(2本目)
- 6回：先行文献の収集と報告(3本目)
- 7回：論文構成の章立て検討
- 8回：論文構成の内容検討
- 9回：論文構成の検討、まとめ
- 10回：論文タイトルの検討
- 11回：論文タイトルの検討、決定
- 12回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認
- 13回：修士論文中間構想発表会に向けての論点確認、発表
- 14回：修士論文中間構想発表会の構想と報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN800

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN801

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN802
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN803

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN804

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN805
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	MN806
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG6630
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN807

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐる指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN808

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN809

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN810

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐる指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN811

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著、宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

研究指導 3

Seminar for Master's Thesis 3

修士論文の執筆を実践する。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： MN812

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG6630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： スポーツウエルネス学研究科必修科目

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆を実践する。

Write your master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

1 年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導 1 が開始される。以後、2 年次修了までの期間を半期ごとに研究指導 2、研究指導 3 と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導 3 では、研究指導 1・2 の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐる指導を行う。

In the fall semester of the first year, students begin Seminar for master's thesis 1, in which they are assigned a supervisor. Thereafter, the period up to the completion of the second year is divided into two semesters, Seminar for master's thesis 2 and Seminar for master's thesis 3, in a step-by-step manner. Based on the premise of reviewing the basic literature and previous research on the research theme, students learn how to conceive the

basic framework for writing their own master's thesis and how to logically structure their thesis, while progressing through the process from setting the research theme to completing the research. In Seminar for master's thesis 2, guidance is given on the actual writing of the master's thesis based on the studies in Seminar for master's thesis 1 and 2.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の検討
- 3回：研究計画の検討、決定
- 4回：論文目次の検討
- 5回：論文目次の検討、決定
- 6回：論文執筆状況の報告
- 7回：論文執筆状況の報告、討議
- 8回：論文執筆状況の報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、再討議
- 10回：論文執筆状況の報告、再修正
- 11回：論文執筆状況の報告、発表
- 12回：論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：論文の最終確認
- 14回：修士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

スポーツウエルネス学研究科必修科目

SW研究1（スポーツ社会学）

Studies In Sports Wellness 1(Sport Sociology)

現代スポーツにおける理論的・実践的課題とその乗り越えの可能性

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN200

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを社会現象として捉え、それを取り巻く様々な問題を社会的に検討し、スポーツと現代社会をめぐる理論的・実践的課題及びこれからのスポーツのあり方を考究する。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

This course will examine various issues surrounding sport as a social phenomenon from a sociological perspective, and investigate the theoretical and practical issues surrounding sport and modern society, as well as the future of sports. In addition, students will actually collect data for conference presentation and paper submission.

授業の内容 / Course Contents

近代スポーツに関する歴史的経緯とその社会的・文化的背景を踏まえて、現代社会におけるスポーツの理論的・実践的課題について社会的に検討し、これからのスポーツのあり方について考究する。スポーツに関する論文を輪読し、それを踏まえながらスポーツの現在の課題を浮き彫りにし、これからのスポーツのあり方に

ついて全員で議論する。更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

Based on the historical background of modern sports and its social and cultural background, this course will examine the theoretical and practical issues of sports in modern society from a sociological perspective and discuss the future of sports. Students will review articles on sports in a circle, highlight the current issues of sports based on their contents and discuss the future of sports. Advice on data collection, conference presentations and writing papers is also provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：授業の進め方、自己紹介（研究領域と問題関心）
- 2 回：スポーツの社会学的理解 対象と方法
- 3 回：近代スポーツ発展過程とその背景
- 4 回：論文講読（1）近代スポーツの発展過程
- 5 回：スポーツの記号論
- 6 回：論文講読（2）記号論的アプローチ
- 7 回：スポーツにおける社会的逸脱（バーンアウト）
- 8 回：論文講読（3）スポーツ競技者のバーンアウト研究
- 9 回：スポーツにおける社会的逸脱（ドーピング）
- 10 回：論文講読（4）スポーツ競技者のドーピング研究
- 11 回：スポーツと政治・メディア
- 12 回：論文講読（5）オリンピックと政治に関する研究
- 13 回：論文講読（6）スポーツとメディアに関する研究
- 14 回：スポーツの近未来 ディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

J.コークリー／P.ドネリー，前田和司・大沼義彦・松村和則共編訳 『現代スポーツの社会学－課題と共生への道のり』 南窓社 2011 9784816503986 -

参考文献 / Readings

多木浩二 『スポーツを考える－身体・資本・ナショナリズム』 筑摩書房 1995 4480056475

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究2（野外教育、環境教育）

Studies in Sports Wellness 2(Outdoor Education and Environmental Education)

環境思想・環境倫理を理解し、社会の持続可能性について考える

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN202

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

持続可能な社会を作るため、環境思想や環境倫理を学ぶ。その後、持続可能な社会を作る方法の1つである環境教育の可能性を検討する。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結びつけることができる。

Students will learn about environmental philosophy and environmental ethics to create a sustainable society.

After that, we will examine the possibility of environmental education as one of the ways to create a sustainable society. Furthermore, they can actually collect data and link it to conference presentations and paper writing.

授業の内容 / Course Contents

本講義では日本語または英語の環境思想・環境倫理の文献を教材に学ぶ。その上で、国内外の環境教育の実践事例に関する資料を検討し、これからの環境教育について議論する。

In this lecture, students will learn from literature on environmental philosophy and environmental ethics in Japanese and English. After that we will examine materials on practical cases of environmental education in Japan and abroad and discuss the future of environmental education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：近現代社会と環境問題（1）「産業革命以降の社会と公害」
- 3回：近現代社会と環境問題（2）「グローバル化と地球環境問題」
- 4回：環境思想の潮流（1）「キリスト教的自然観」
- 5回：環境思想の潮流（2）「ロマン主義～レイチェルカーソン」
- 6回：環境思想の潮流（3）「人間中心主義と非人間中心主義」
- 7回：環境思想の潮流（4）「エコロジズムと環境プラグマティズム」
- 8回：環境教育の歴史（1）「世界の環境教育」
- 9回：環境教育の歴史（2）「日本の環境教育」
- 10回：環境教育を体験する（1）「内在的自然に気づく」
- 11回：環境教育を体験する（2）「自然観察と環境保全活動」
- 12回：SDGs と ESD
- 13回：これからの環境教育について考える
- 14回：全体討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業に参加する姿勢:50% プレゼン:30% 哲学対話:20%

・前期課程の評価方法に加えて課題を課す。

・全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

加藤尚武 『新・環境倫理学のすすめ』 丸善出版 2020 4621305875 ○

藤田 香 『ESG と TNFD 時代のイチから分かる 生物多様性・ネイチャーポジティブ経営』 日経 BP 2023 9784296202096 ○

参考文献 / Readings

ジェイソン・ヒッケル 『資本主義の次に来る世界』 東洋経済新報社 2023 4492315497

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究3（トレーニング科学、コーチング

Studies in Sports Wellness 3(Training Science and Coaching

トレーニング科学とコーチング

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN204

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツコーチングやトレーニングに関する研究論文等を精読して、スポーツ指導における新しい知見の理解を深める。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付ける。

Deepen understanding of new findings in sports coaching by reading research papers on sports coaching and training. In addition, students will collect actual data to present at academic conferences and write articles.

授業の内容 / Course Contents

スポーツにおけるコーチングやトレーニング科学についての研究動向について紹介して受講生とディスカッションする。また、スポーツ指導に関わっている受講生は指導実践について報告する。授業の流れとしては、トレーニングやコーチングに関する講義を受けて、テキストの中から興味がある章を決めて文献を読み、内容について発表する。更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

Research trends in coaching and training science in sports will be introduced and discussed with students.

Students who are involved in sports coaching will report on their coaching practices. The flow of the class will

consist of a lecture on training and coaching, reading of a chapter of interest from the textbook, and a presentation on the contents of the chapter. In addition, students will be given advice on data collection, conference presentations, and writing paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コーチング分野に関する文献紹介
- 2 回：トレーニング科学分野に関する文献紹介
- 3 回：コーチング、トレーニング科学分野の倫理申請について
- 4 回：論文抄読会の説明と割り振り
- 5 回：トレーニング科学講義（筋力トレーニング）
- 6 回：課題論文抄読の発表（1）
- 7 回：トレーニング科学講義（持久力トレーニング）
- 8 回：課題論文抄読の発表（2）
- 9 回：トレーニング科学講義（その他のトレーニング）
- 10 回：コーチング分野に関する講義
- 11 回：課題論文抄読の発表（3）
- 12 回：総説文献発表およびディスカッション（1）
- 13 回：総説文献発表およびディスカッション（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習や課題の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 最終レポート割合 :30%

評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

David Daniel Lewindon 『ハイパフォーマンスの科学』 ナップ 2018 139781450444828 -

参考文献 / Readings

沼澤秀雄 『サッカーフィットネスの科学』 東京電機大学出版 1998 9784501615802

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究4（環境生理学、神経科学）

Studies in Sports Wellness 4(Environmental Physiology, Neuroscience)

環境生理学、神経科学

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN206

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項）第12回は対面で実施する予定である。変更になった場合は授業内で告知およびCanvas LMSで配信する。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

環境生理学そして神経科学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、パフォーマンスに対する生理・神経機能の働きやその向上方法について理解を深める。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

Students will learn about environmental physiology and neuroscience from international journal articles and other literature, and deepen their understanding of how physiology and neurological functions affect performance and how to improve it. Furthermore, the students will be able to actually collect data and link it to conference presentations and paper writing.

授業の内容 / Course Contents

本講義では日本語または英語の環境生理学そして神経科学の文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表

し、その後、内容について解説し議論する。更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。
In this lecture, students will learn from literature and textbooks on environmental physiology and neuroscience in Japanese and English. In addition, to support their independent research activities, students will read review articles in international journals of their own choice, present the contents, and then explain and discuss the contents. Furthermore, advice on data collection, conference presentations, and paper writing will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、自己紹介
- 2 回：神経科学研究の手法
- 3 回：環境生理学研究の手法、倫理申請書の書き方
- 4 回：倫理申請書の発表
- 5 回：論文査読方法の説明
- 6 回：神経科学講義（運動と中枢神経系の関係）
- 7 回：課題論文査読の発表（1）
- 8 回：環境生理学講義（運動と遺伝子の関係）
- 9 回：課題論文査読の発表（2）
- 10 回：神経科学講義（生活習慣と中枢神経系の関係）
- 11 回：英語総説文献の検索方法、選定
- 12 回：神経科学研究の実際
- 13 回：環境生理学講義（体温調節とパフォーマンスの関係）
- 14 回：英語総説文献発表およびディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Romain Meeusen, Sabine Schaefer, Phillip Tomporowski, Richard Bailey Physical Activity and Educational Achievement: Insights from Exercise Neuroscience Routledge 2019 9780367233518 -

参考文献 / Readings

Sports Medicine, Journal of Applied Physiology, Medicine and Science in Sports and Exercise, Neuroscience Letters, Brain Research, Journal of Thermal Biology

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究5（ウエルネスジェンダー学）

Studies in Sports Wellness 5(Wellness and Gender Studies)

ウエルネスジェンダー論

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN208

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーの視点からウエルネスについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられる健康問題、健康政策、健康教育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。ジェンダーについて学会等で発表できる能力を身につける。

The goal is to learn the fundamentals for thinking about wellness from the perspective of gender, consider from the perspective of gender, topics such as health problems, health policy, and health education as seen from modern society, and develop your analytic skills. Acquire the ability to give presentations on gender at academic conferences, etc.

授業の内容 / Course Contents

現代社会にはウエルネスをめぐる様々な問題がみられるが、ジェンダーに起因するものも少なくない。人々がより高次のウエルネスを追求するためには、ウエルネスをめぐる様々な事象についてジェンダーの視点からの問い直しが欠かせない。文献講読をし、議論をする中でウエルネスへの新たなアプローチを紹介する。

Various problems surrounding wellness are evident in modern society, and those stemming from gender are not insignificant. For people to demand a higher level of wellness, various issues surrounding wellness need to be reevaluated from the perspective of gender. We will introduce new approaches to wellness through critical reading of the literature and debate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ジェンダー概念の検討（1）ジェンダー概念の登場
- 3回：ジェンダー概念の検討（2）ジェンダー概念の変遷
- 4回：ジェンダー概念の検討（3）今日的なジェンダー概念
- 5回：テキスト講読（1）
- 6回：テキスト講読（2）
- 7回：テキスト講読（3）
- 8回：テキスト講読（4）
- 9回：テキスト講読（5）
- 10回：テキスト講読（6）
- 11回：テキスト講読（7）
- 12回：テキスト講読（8）
- 13回：テキスト講読（9）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ジェンダーの視点からウェルネスについて日頃から考える習慣をつけてください。授業時間の関係上、授業で取り上げない章については自習をお願いします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート①:30% 中間レポート②:30% 最終レポート割合：40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

飯田貴子他編著 『よくわかるスポーツとジェンダー』 ミネルヴァ書房 2018 -

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究6（スポーツ栄養学）

Studies in Sports Wellness 6(Sport Nutrition)

グローバル時代のスポーツ栄養学

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN210

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

運動時の物質代謝とこれに伴う栄養要求の変化について、運動の種類や強度・時間を踏まえて理解し、栄養教育の理論と応用についても学ぶ。さらに、実際に倫理申請書の書き方、データ収集と分析、学会発表や論文執筆の能力を高める。

授業の内容 / Course Contents

英語の研究論文の講読を通して、スポーツと栄養の関係をより深く学び、スポーツ現場で直面する実践的な課題についても議論していく。同時に海外のスポーツ栄養学の研究と普及の現状についても解説していく。受講生は栄養学の基本的知識を身につけていることと英文を読むのを苦にしない英語力を持っていることが望ましい。さらに、倫理申請書の書き方、データ収集と分析、学会発表や論文執筆に関する指導を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、スポーツ栄養学の歴史

2 回：スポーツ栄養学の基礎

- 3回：食事の基本（フードピラミッドと食事バランスガイド）
 4回：エネルギー代謝とは
 5回：炭水化物と練習・試合
 6回：脂肪と体組成・ウエイトコントロール
 7回：タンパク質と筋肉づくり
 8回：ミネラルと骨・血液の健康
 9回：ビタミン・抗酸化物質とコンディショニング
 10回：水分補給と体温調節
 11回：サプリメントとエルゴジェニック
 12回：成長期と女性スポーツの注意点
 13回：栄養アセスメント
 14回：栄養教育

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の 2/3 は英文の訳のプレゼンのため予習が前提となり、1/3 は前週の内容の討論に充てるので復習も大事である。予習・復習に毎週約 8 時間を要する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 最終テスト割合 : :30%

全てにおいて前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Rawson E et al Williams' Nutrition for Health, Fitness and Sport. 12th Ed. McGraw Hill 2019 -

参考文献 / Readings

杉浦克己 『スポーツ栄養学がわかる』 大修館書店 2021 13 9784469269208

International Journal of Sport Nutrition and Exercise Metabolism, Medicine and Science in Sports and Exercise.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語力, プレゼン能力

その他 / Others

https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9IYhVw

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究7（スポーツ医学）

Studies in Sports Wellness 7(Sports Medicine)

スポーツ医学、スポーツ外傷

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN212

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン） 初回および最終回は対面とする。それ以外は、対面+オンラインのハイブリッド講義とする。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ医学とは、医師など医療従事者が行う学問だけではなく、スポーツに関連した健康やパフォーマンス向上に関する研究も含まれる非常に広い分野の学問である。医学研究をベースに、さまざまな研究の問題点や研究プランニングを学ぶことを目標とする。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

Sports medicine is not a field just practised by medical practitioners such as doctors, but actually, a very wide academic field that includes research into improving health and performance related to sports. This course aims to learn about the various research problems and planning, using medical research as a base.

In addition, students will be able to collect data and present them at conferences and write papers.

授業の内容 / Course Contents

受講者がスポーツ医学に関する任意のトピックスを選択し、バックグラウンドの説明のため、関連した研究論

文（英文）の紹介を受講者が順番に行う。また、このトピックスに基づき、検討可能な研究テーマを作成し、議論する。

更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

Students will select topics of their choice and then introduce related academic papers (English) to provide background explanations. Then, based on these topics, students will create a research theme for consideration and discuss it.

Advice on data collection, conference presentations and writing papers is also provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、自己紹介
- 2 回：スポーツ医学研究のトピックス（外傷）
- 3 回：スポーツ医学研究のトピックス（障害）
- 4 回：現場で必要なスポーツ医学のトピックスを議論する
- 5 回：医学的研究における結果から考察への検討方法について
- 6 回：興味あるスポーツ医学分野を探る
- 7 回：ケガは予防できるか？
- 8 回：興味あるテーマに関する論文をプレゼンする（1）
- 9 回：興味あるテーマに関する論文をプレゼンする（2）
- 10 回：トップアスリートのメディカルサポート
- 11 回：スポーツ医学についての興味あるテーマや論文について議論する（外傷）
- 12 回：スポーツ医学についての興味あるテーマや論文について議論する（障害）
- 13 回：治癒が長引くスポーツ外傷の問題点とは
- 14 回：トピックスに関しての最終ディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習および復習に関して、授業中に課題を出すので、指定したオンライン授業支援システムへ提出すること。Students will be given preparation and review during each lecture. They should submit the assignment with the Canvas LMS.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業での発表:35% 授業中の議論、準備、参加:35% 授業内レポート:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

中嶋寛之 『新版 スポーツ整形外科学』 南江堂 2011 4524262652 -

授業履修にあたり、テキストの使用方法は授業内で説明する。したがって、事前にテキストを購入する必要は無い。

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究8（健康心理学）

Studies in Sports Wellness 8(Health Psychology)

博士論文の研究テーマについて、心理学などの異分野から検討を試みる。

遠藤 伸太郎 (ENDO SHINTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN214

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 第1回は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、受講生のそれぞれの研究テーマについて心理学を始めとする異分野の側面から思考することで、新たな発見をしたりより広い視点からのアプローチを見出すことを目指す。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

The aim of this class is to let students think about their research topics from the viewpoint of different fields, starting with psychology, to make new discoveries and uncover approaches with a broader mindset. Furthermore, the students will be able to actually collect data and link it to conference presentations and paper writing.

授業の内容 / Course Contents

各専門分野においては、それぞれ継承されてきた手法を用いて、ある枠の中で研究がなされるのが一般的である。しかしながら、異分野の視点を導入することで、新たな発見や思考方法を見出すことも少なくない。本講義では、受講者のそれぞれの研究テーマが心理学的事象とどのように関連するのか、あるいはどのような意義を有するのかについて、討論を通して学習する。更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを

う。

In specialized fields, the research methodology and frameworks are typically those that have been passed down within that field. However, it is not uncommon for new discoveries to be made or new ways of thinking to be uncovered when perspectives from other fields are introduced. In this course, students will learn through discussion how psychological phenomena relate to their research theme and the significance of that relationship. In addition, we will provide advice on data collection, conference presentations, and writing papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、自己紹介
- 2回：心理学研究の手法
- 3回：心理学研究の手法、倫理申請書の書き方
- 4回：各受講者の研究テーマの発表
- 5回：論文査読方法の説明
- 6回：心理学講義1（メンタルヘルスと心理）
- 7回：心理学講義2（スポーツと心理）
- 8回：心理学講義3（ライフスキルと心理）
- 9回：心理学講義4（価値観と心理）
- 10回：心理学講義5（生活習慣と心理）
- 11回：心理学講義6（人間関係と心理）
- 12回：日本語関連文献の発表
- 13回：英文関連論文の講読と発表
- 14回：これまでの講義内容の確認とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

杉原 保史他編 『公認心理師標準テキスト心理学的支援法』 北大路書房 2019 9784762830563 -

参考文献 / Readings

久保 拓弥 『データ解析のための統計モデリング入門』 岩波書店 2012 9784000069731

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究9 (バイオメカニクス)

Studies in Sports Wellness 9(Biomechanics)

バイオメカニクス

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科
科目コード等： SN216
授業形態： オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項） 実験室で計測と分析を行うため、対面で6回実施する（7～12回目の授業）。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG7110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程学生対象
2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツや日常生活における身体動作に関するバイオメカニクス（生体力学）分野の研究例を英文学術論文から学ぶとともに、バイオメカニクスの手法を用いて計測・分析する技術を習得する。
さらに、プログラミングによって実際の計測データから変数を算出することができる。

授業の内容 / Course Contents

バイオメカニクス分野の国際学術雑誌に掲載されている研究論文の抄読を行い、世界水準の研究について学ぶ。また、バイオメカニクスの研究手法に関する講義に加え、実際にモーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測、Excel およびプログラミングによる分析を行い、テクノロジーを活用した計測・分析手法を習得する。

さらに、自身の研究の計測データを用いて、プログラミングによる変数算出を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究について、バイオメカニクスとは

- 2回：バイオメカニクスの研究手法（ボール変形量と衝撃力の研究）
 3回：バイオメカニクスの研究手法（身体動作計測による研究）
 4回：バイオメカニクスの研究手法（工学的手法を用いた研究）
 5回：研究論文抄読（Clinical Biomechanics）
 6回：研究論文抄読（Journal of Biomechanics）
 7回：モーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測（VICONの説明）
 8回：モーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測（VICONの使用）
 9回：データ処理（VICONデータのクリーニング）
 10回：データ処理（MATLABによるデータ抽出）
 11回：Excelによる分析（運動学的分析）
 12回：Excelによる分析（運動力学的分析）
 13回：プログラミングによる分析（MATLABによる運動学的分析）
 14回：プログラミングによる分析（MATLABによる運動力学的分析）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。予習・復習に毎週約5時間を要する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

各評価方法において、前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

金子公宥・福永哲夫編 『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎』 杏林書院 2004年 8,250円
9784764410695

ゴードン ロバートソン他著／阿江通良監訳 『身体運動のバイオメカニクス研究法』 大修館書店 2008年
4,180円 9784469266535

上坂吉則著 『MATLAB プログラミング入門』 牧野書店 2011年 2,200円 9784434155918

— Journal of Biomechanics ELSEVIER 00219290

— Clinical Biomechanics ELSEVIER 02680033

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究10（スポーツ・運動心理学）

Studies in Sports Wellness 10(Sports and Exercise Psychology)

Sports and Exercise Psychology, Motivation

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN218

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） The first and last lessons will be conducted in the face-to-face mode. If the delivery mode will be changed, you will be informed about it via Canvas LMS.

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of sport and exercise psychology:

- Understand the recommended procedures and methods to review literature systematically,
- Conduct a systematic review and meta-a

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of sport and exercise psychology:

- Understand the recommended procedures and methods to review literature systematically,
- Conduct a systematic review and meta-analysis of empirical studies,
- Present the summary of the systematic review of the studies, and
- Write up a report of the systematic review and meta-analysis of the studies.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to conduct systematic review and meta-analyses adequately. Students are required to identify a psychological technique or an intervention approach to enhance individual's mo

This course is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to conduct systematic review and meta-analyses adequately. Students are required to identify a psychological technique or an intervention approach to enhance individual's motivation or performance or change their behaviors in the field of sport and exercise psychology. They will work on a systematic review of the effectiveness of the technique or intervention they are interested in.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to systematic reviews and meta-analyses of studies
- 2 回： Recommended procedures for systematic reviews
- 3 回： Recommended methods for systematic reviews
- 4 回： Systematic search of literature by using databases
- 5 回： Systematic reviews of the identified literature
- 6 回： On reporting the findings of the systematic reviews
- 7 回： The fundamental concept and knowledge of meta-analysis
- 8 回： Best practice guidelines in meta-analysis
- 9 回： Doing meta-analysis with software (Basic topics)
- 10 回： Doing meta-analysis with software (Advanced topics)
- 11 回： On reporting the findings of meta-analyses
- 12 回： Writing up a report of the systematic review
- 13 回： Writing up a report of the meta-analytic systematic review
- 14 回： Presentation of the systematic review and meta-analyses

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read recommended materials before attending lessons and work on assignments specified in the course.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Research-based learning tasks:20% Systematic review report:40% Presentation on systematic review:30% Positive learning contribution:10%

Doctoral student's performance will be evaluated more critically than Master's students. Doctoral students are required to write up a systematic review paper with and meta-analyses, which can be published in a peer-review journal.

テキスト / Textbooks

Harrer, M., Cuijpers, P., Furukawa, T.A., & Ebert, D.D. Doing meta-analysis with R: A hands-on guide.

Chapman & Hall/CRC Press 2021 -

参考文献 / Readings

Gunnell et al. (2022): Systematic review methods, *International Review of Sport and Exercise Psychology*, DOI: 10.1080/1750984X.2021.1966823

Hagger. (2022): Meta-analysis, *International Review of Sport and Exercise Psychology*, DOI: 10.1080/1750984X.2021.1

注意事項 (検索結果画面)

後期課程学生対象

SW研究 11 (スポーツ方法学)

Studies in Sports Wellness 11(Performance Analysis)

スポーツ方法学、フィジカルコーチ学

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN220

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ方法学研究の現在を、主に、国際雑誌の論文などの文献から学びスポーツ方法学のスポーツウエルネスへの貢献を理解する。特にスポーツパフォーマンス分析や、競技種目に対するトレーニングやフィジカルチェック方法を取り上げ、実践的なスポーツ方法学研究手法を理解する。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

授業の内容 / Course Contents

本講義では、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、国際雑誌の論文などの欧文を精読し内容を発表し、その後、各内容について、解説し議論する。更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス・スポーツ方法学研究の手法

2 回：スポーツパフォーマンス分析に関する文献誦読及び議論

- 3回：スポーツパフォーマンス分析
 4回：スポーツ種目特性の理解に関する文献誦読及び議論
 5回：スポーツ種目特性の理解
 6回：フィジカルチェックに関する文献誦読及び議論
 7回：フィジカルチェックの考え方
 8回：体力トレーニングに関する文献誦読及び議論
 9回：体力トレーニングの考え方
 10回：種目特性に関する文献誦読及び議論
 11回：種目特性に応じたフィジカルチェックとトレーニング
 12回：フィジカルコーチの役割に関する文献誦読および議論
 13回：フィジカルコーチの役割
 14回：スポーツ方法学研究のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Javier Mallo Team sports training -The complexity model- Routledge 2020 0367860708 -

参考文献 / Readings

Jens Bangsbo Aerobic and Anaerobic Training in Soccer: Special Emphasis on Training of Youth Players (Fitness Training in Football 1) Stormtryk 2007 8790170210

Jens Bangsbo Fitness Testing in Football(Fitness Training in Football 2) Stormtryk 2011 8799488000

Jens Bangsbo Power Training in Football: A Scientific and Practical Approach(Fitness Training in Football 3) Stormtryk 2013 8799488019

Jens Bangsbo Individual Training in Football(Fitness Training in Football 4) Bangsbosport 2014 788799488025

Jens Bangsbo Nutrition in Football(Fitness Training in Football 5) Bangsbosport 2017 9788799488032

Jens Bangsbo Warm-up in Football: Optimize Performance and Avoid Injuries(Fitness Training in Football 6) Routledge 2021 0367675056

Paul Bradley FOOTBALL DECODED: Using Match Analysis & Context to Interpret the Demands Independently published 2020 9798572156942

注意事項 (検索結果画面)

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究12 (分子細胞生物学)

Studies in Sports Wellness 12(Molecular Cell Biology)

分子生物学 (Molecular Biology)

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN222

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 初回は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ、健康に関係する分子生物学、細胞生物学および生化学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、ヒトの細胞内・体内で起きる現象の分子基盤について理解を深める。更に、実験データの取得や学会発表、そして論文執筆に結び付けることができる。

Students will learn about topics in molecular biology, cell biology, and biochemistry related to sports and health from international journal articles and other literature and deepen their understanding of the molecular basis of phenomena that occur in the human cells and human body. In addition, students will be able to receive advice to obtain experimental data and present them at conferences and write papers.

授業の内容 / Course Contents

本講義ではスポーツや健康に関する分子生物学、細胞生物学および生化学分野の、日本語または英語の文献や教科書を教材に学ぶ。加えて、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。更に、実験データの取得、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

In this course, students will learn about molecular biology, cell biology, and biochemistry related to sports and health from literature and textbooks in English and Japanese. In addition, to support students' independent research activities, students will read review articles in international journals of their own choice, present the contents, and then explain and discuss the contents. In addition, advice will be given on obtaining experimental data, presenting at conferences, and writing papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、自己紹介
- 2 回：生化学の手法
- 3 回：分子生物学・細胞生物学の手法
- 4 回：課題の読み方の説明
- 5 回：生化学講義（糖の代謝）
- 6 回：生化学講義（脂質の代謝）
- 7 回：課題の発表1（生化学）
- 8 回：分子生物学・細胞生物学講義（細胞内シグナル伝達）
- 9 回：分子生物学・細胞生物学講義（筋肉）
- 10 回：課題の発表2（分子生物学）
- 11 回：英語総説文献の検索方法、選定
- 12 回：分子生物学・細胞生物学講義（オルガネラ）
- 13 回：分子生物学・細胞生物学研究の実際
- 14 回：英語総説文献発表およびディスカッション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題発表および英語総説文献発表のために各自準備が必要である。

Students should prepare for the presentation of their assignments and the presentation of the review articles written in English.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内提出物:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

B.Alberts et al. Molecular Biology of the Cell GARLAND SCIENCE 2022 9780393884852 -
 Donald Voet et al. Principles of Biochemistry Wiley 2018 1119451663 -

参考文献 / Readings

Zsolt Radak The Physiology of Physical Training Elsevier 2018 9780128151372

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC Zoom

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究13（スポーツマネジメント）

Studies in Sports Wellness 13(Sport Management)

スポーツマネジメントに関する専門的で総合的な学術的基盤を構築する

ライター（LEITNER KATRIN J.）

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN224

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 1回目と14回目は対面実施の予定。詳細は授業開始前までに「Canvas LMS」にてお知らせする。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

欧米諸国を中心とした海外のスポーツ組織とそのマネジメント手法を日本と比較し、日本のスポーツマネジメントの特徴や課題に関する研究テーマを取り上げ、研究者としての専門的で総合的な基盤を構築することを目標とする。

This course will examine characteristics and issues of Japanese-style sport management from a comparison with foreign sport organizations and its management methods. With the aim of building a comprehensive professional foundation as a researcher, students will deepen the understanding of the academic field of sport management and consider their research.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、国内外の様々なスポーツ現場におけるマネジメントの実践例を取り上げ、グローバルな視点から日本のスポーツマネジメントの現状や課題について検討する。特に学会発表や論文投稿を視野に、国際雑誌の

研究論文などを精読し、発表および討論を通してスポーツマネジメントの国際的課題について考究する。

Using practical examples of management at various sport sites in Japan and foreign countries, this course tries to examine the current situation and issues of Japanese sport management from a global perspective. Particularly with regard to presentations at academic conferences and paper submission, students will review research papers from international journals and examine various issues in global sport management through presentation and discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとスポーツマネジメント概論
- 2回：国際比較の視点からスポーツマネジメント研究を考える
- 3回：スポーツマネジメント研究の手法：質的研究
- 4回：スポーツマネジメント研究の手法：量的研究
- 5回：国際比較研究の方法と解析
- 6回：テーマ①：スポーツ組織とマネジメント
- 7回：テーマ①と関連する課題文献査読の発表&討論
- 8回：テーマ②：米国におけるスポーツ組織とマネジメント
- 9回：テーマ②と関連する課題文献査読の発表&討論
- 10回：テーマ③：欧州におけるスポーツ組織とマネジメント
- 11回：テーマ③と関連する課題文献査読の発表&討論
- 12回：テーマ④：日本におけるスポーツ組織とマネジメント
- 13回：テーマ④と関連する課題文献査読の発表&討論
- 14回：まとめ：グローバルスポーツマネジメントの展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】

- 1) 発表者：論文の要約と議論や疑問点等について発表準備
- 2) 発表者以外：各回の文献を読み込んで、討論の準備

【復習】

- 1) 発表者：授業時の討論や議論をまとめレポートを作成

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:30% 授業における討論:30% 最終レポート割合 :40%

※全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Eric W, MacIntosh et al. International Sport Management (2nd Edition) Human Kinetics 2020
9781492556787 -

参考文献 / Readings

Leigh Robinson et al. Routledge Handbook of Sport Management Routledge 2012

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

主に英語文献を読解するため、ある程度の英文読解力が求められる。

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究14 (トレーナー科学)

Studies in Sports Wellness 14(Trainer Science)

トレーナー科学

後関 慎司 (GOSEKI SHINJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN226

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) 初回授業は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

トレーナー科学、トレーニング科学分野に関わる研究手法を国内外の論文から学び、その研究手法などを理解することで、自身の研究活動に生かすことができるようになること。更に、受講者自身が実際にデータ収集を行い、学会発

表や論文執筆に結び付けることができる。

The students will be able to understand the research methods related to the fields of trainer science and training science from domestic and international researches, so as to be able to apply them to one's own research activities. Furthermore, the participants will be able to actually collect data themselves and link it to conference presentations and writing papers.

授業の内容 / Course Contents

本講義は受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生自身が国際雑誌の論文を精読し、その内容について発表する。

In this lecture, for the purpose of supporting the students' voluntary research activities, the students themselves carefully read the papers of international journals and present their contents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：スポーツ現場と科学研究の関係性①
(予防の重要性)
- 3回：文献調査①(予防について)
- 4回：グループディスカッション(まとめ)
プレゼンテーションスキル(スライド作成)
- 5回：プレゼンテーションスキル(発表)グループ
- 6回：スポーツ現場と科学研究の関係性②
(利己・利他)(短期的視野・長期的視野)
- 7回：文献調査②(利己・利他)(短期的視野・長期的視野)
- 8回：グループディスカッション(まとめ)
プレゼンテーションスキル(スライド作成)
- 9回：プレゼンテーションスキル(発表)グループ
- 10回：スポーツ現場と科学研究の関係性③
(部分最適・全体最適)
- 11回：文献調査③(部分最適・全体最適)
- 12回：プレゼンテーションスキル(スライド作成)
- 13回：プレゼンテーションスキル(発表)(質疑応答)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で発表される文献を事前に必ず読み、疑問点や討論したい内容等を予習しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業内でのディスカッション:30% 授業内での発表:40%

後期課程の評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト/ Textbooks

ピーター・オドノヒュー 著 中川昭 監訳 橘肇 訳 長谷川悦示 訳 『スポーツパフォーマンス分析入門—基礎となる理論と技法を学ぶ』 大修館書店 2020 9784469268843 -

日本スポーツ協会 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト』 財団法人日本スポーツ協会 -

参考文献 / Readings

臨床スポーツ医学編集委員会 『スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第2版』 文光堂 2015
9784830651823

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究15 (データサイエンス)

Studies in Sports Wellness 15(Data Science)

データサイエンス、スポーツデータ分析

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科
科目コード等： SN228
授業形態： オンライン (一部対面)
授業形態 (補足事項) 2~3回を必ず対面授業で行います。
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG7110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスが解決する主な課題やスポーツにおける応用事例を学び、データサイエンスの課題解決の方法論に関する理解を深める。また、データサイエンス的課題解決力の向上を図る。更に、スポーツ分野データ分析におけるデータの収集方法に関する理解を深める。

This course covers major problems in data science as well as applied use cases in sports science. Students will learn the basic problem-solving methods using data science approaches. Students will also cultivate problem solving skills by applying the methods to their topic of interest in sports science. Understanding of data collection methods in sports science is another objective of this course.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題とそれらを解決するデータサイエンスの手法を学ぶとともに、スポーツにおける応用事例についても理解を深める。また、受講者が自ら選択したテーマについて、データサイエンスの手法を活用した課題解決アプローチを考案し、その内容を発表、議論する。更に、スポーツにおけるデータ収集の一般的方法について知見を深める。

This course will provide you knowledge regarding data science-based problem-solving skills. During this semester, you will learn (1) major data science problems, (2) and data science methods to solve such problems, (3) applied use cases in sports science. In addition, you will choose one topic in sports science that can apply data science approach, present your ideas to the entire class, and discuss your ideas with classmates. You also will learn the basic data collection methods in sports science.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、自己紹介
- 2 回：一般的なデータ分析プロセス
- 3 回：分析ユースケース定義、データ分析事例
- 4 回：データ前処理技術の基礎
- 5 回：統計学の基礎
- 6 回：探索的データ分析
- 7 回：機械学習の基礎
- 8 回：機械学習の基礎
- 9 回：機械学習の事例
- 10 回：スポーツ分野におけるデータサイエンスの応用事例
- 11 回：選択テーマの調査結果発表とディスカッション
- 12 回：AI を利用したアプリケーション開発
- 13 回：機械学習の応用：集団学習
- 14 回：ニューラルネットワークと大規模言語モデル

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表 (3 回予定) :80% 演習課題:10% 積極的な授業への参加:10%
 全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本講義では基本的な PC でのファイル操作 (ファイルのコピーやペースト、ファイルの圧縮や解凍など) や基本的な Google Drive の操作方法 (Google Drive 上のフォルダ・ファイル操作、ファイルのコピー・共有など)、Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の操作方法は習得していることを前提とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出には PC での作業が必須となります。個人の PC を持参することを強く推奨します。あるいはメディアセンターより PC を借りるようになしてください。

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究16（ウェルネス科学）

Studies in Sports Wellness 16(Wellness Science)

「よりよい生き方」とは何か

濁川 孝志 (NIGORIKAWA TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウェルネス学研究科
科目コード等： SN230
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG7210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程学生対象
2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

ウェルネスとは何かを理解し、人間が生きることの意味について、映画『ガイアシンフォニー』と写真家『星野道夫』を題材として考察する。それを前提に、自分自身の「ウェルネス観」を構築し、それを授業で発表し、議論の上再検討を加えブラッシュアップする。

This course aims to deepen the understanding of wellness by examining the meaning of human life using the movie "Gaia Symphony" and materials of the photographer "Michio Hoshino". Based on this premise, students aim to construct their own "view of wellness", present it in class for discussion and reexamination to brush it up.

授業の内容 / Course Contents

映画『ガイアシンフォニー』は、ガイア理論、すなわち“地球は一つの生命体である”という考え方をベースに作成されたドキュメンタリー映画であり、環境問題や人間の精神性に関心を寄せる人たちのバイブル的存在となっている。また、『星野道夫』の写真や文章も、環境問題や人の精神性を考えるうえで、とても重要な示唆を

与えてくれる。本授業では、この2つを題材として、“よりよく生きる”ことを前提とし、“自然環境と人間の在り方”、“生き方の多様性”などの点について議論する。

The movie "Gaia Symphony" is a documentary film based on the Gaia theory, which is the idea that the earth is one living organism, and has become a bible for those who are interested in environmental issues and human spirituality. Further, the photographs and writings of "Michio Hoshino" also provide very important insights into environmental issues and human spirituality. Using these materials, this course will discuss topics like "the state of the natural environment and human beings" and "the diversity of ways of life" based on the premise of "living better".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業全体のオリエンテーション。自己紹介。
- 2 回：環境問題の現状に関して
- 3 回：星野道夫とウエルネス：生き方
- 4 回：星野道夫とウエルネス：価値観
- 5 回：星野道夫とウエルネス：スピリチュアリティへの眼差し
- 6 回：映画『ガイアシンフォニー』より星野道夫：ビル・フラー
- 7 回：映画『ガイアシンフォニー』より星野道夫：ボブ・サム
- 8 回：映画『ガイアシンフォニー』より星野道夫：シリアハンター、ドン・ロス
- 9 回：映画『ガイアシンフォニー』より名嘉睦稔
- 10 回：映画『ガイアシンフォニー』よりケリー・ヨスト
- 11 回：映画『ガイアシンフォニー』よりナイノア・トンプソン
- 12 回：ウエルネスを見つめて：種と生活
- 13 回：ウエルネスを見つめて：言葉の持つ力
- 14 回：ウエルネスを見つめて：全ての人に星空を

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での発言:60% 最終レポート:40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

濁川孝志 『ガイアの伝言』 でくのぼう出版 2020 9784434272998 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の順番は多少変わる可能性があります。

ゲストスピーカーをお呼びして、授業の理解を深める予定です。

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究17（アダプテッド・スポーツ）

Studies in Sports Wellness 17(Adapted Sports)

アダプテッドスポーツ（Adapted Physical Activities）、障がい者スポーツに関わる自然科学的、人文社会学的思考の試み

田中 信行（TANAKA NOBUYUKI）

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN232

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

授業の目標 / Course Objectives

障がいのある人や加齢により身体的虚弱になった人にとって、身体運動はどのような意義をもつのか・・・という問いに対して、簡単な研究的演習を通して、履修された人と共に取り組み、いくつかの指標を確認することを目標とします。更に、自らの研究データの収集や分析に応用できるように努めてもらいます。

The aim of this course is to confirm with several indexes to what extent physical exercise is meaningful to people with disabilities and people whose physical strength has degraded due to old age, employing a simple research-style seminar along with your fellow classmates.

授業の内容 / Course Contents

身体の一部に障がいがある人たち（虚弱高齢者等を含む）にとって身体運動がどのような意味をもつのか、実際の運動プログラムにはどのようなものがあるのかを検討します。また現在のパラリンピックなどの障がい者スポーツの現状と課題についても、履修された方の意見を聞きながら、演習的にその内容を検討します。更

に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行います。

We will consider what meaning physical exercise has for people who have a disability somewhere (including the elderly infirm) and what kind of exercise programs are in use. We will also consider research material, seminar style and hearing contributions from all students, concerning the current state and issues of sports, such as the Paralympics, for those with physical disabilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：・授業ガイダンス
・現在の研究予定の（各自）紹介
- 2回：・視覚情報の違いが歩行距離に及ぼす影響の検討
（長めの物差しが必要）
- 3回：・片脚・両脚でのパフォーマンス比較
（長座位になれる環境、テニス等ボールが必要）
- 4回：・2. の取り組みについてデータを抽出し、分析を行う。
- 5回：・4.の分析
- 6回：・姿勢を変えての左右手間のボールキャッチ
（仰臥位になれる環境、テニス等ボールが必要）
- 7回：・6.の分析
- 8回：・アダプテッドスポーツ対象者を対象とした先行研究紹介
例：脊髄損傷者、下肢切断者の体力を捉える
- 9回：・アダプテッドスポーツ対象者を対象とした先行研究紹介
例：一般校(特別支援学校以外の)体育授業における障がい児への合理的配慮
- 10回：・アダプテッドスポーツ対象者を対象とした先行研究紹介
例：パラスポーツ経験と障がいの理解
- 11回：・質的研究、テキストマイニングの準備(KHcoder 使用)
- 12回：・アダプテッドスポーツに関連するアンケート分析
例：オリンピック以上の Performance を記録したパラリンピアンオリンピック参加の是非
- 13回：・アンケートによる自由筆記／インタビュー内容の分析
- 14回：・ディスカッション
・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

可能な限り、簡易な実験を行い、その結果を含めた Data の処理を Excel で行うようにします。

そのため、自らの研究分野に関わらず Excel の操作ができるようにしておいてください。

この操作は、研究以外でも使用できる能力にも使用できます。

なお、授業内でできなかったものは、授業時間外で処理できるようにしておいてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実験の実施:10% 実験・調査結果の分析・発表:30% 授業における討論:30% 課題レポート:30%

授業の進展毎に課題を提供します。その課題に取り組んでください。詳細は、授業ガイダンスで説明します。全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求します。

テキスト / Textbooks

日本アダプテッド体育・スポーツ学会 『アダプテッド・スポーツ科学』 市村出版 2004 21897743 - 配布資料は、前述書籍などを基準として必要な内容を準備します。また授業中などに作成したデータ資料も使用します。

参考文献 / Readings

The Official Journal of the International Federation of Adapted Physical Activity Adapted Physical Activity Quarterly IFAPA 2021 07365829

その他、必要に応じて参考文献等を紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Microsoft Excel を多用します。

履修に当たっては、その操作に慣れておいてもらえると助かります。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンが必要となります。

特に 11 から 14 回目は、Windows の PC が必要になりますので、準備下さい。

その他 / Others

可能な限り、Paperless による授業を予定しています。そのため、履修者と教員とでメールによる連絡をします。(教員のメールアドレス： 5550307@rikkyo.ac.jp)

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象/2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究18（スポーツメディア）

Studies in Sports Wellness 18(Sport and Media)

スポーツの価値と社会について考える～五輪・パラリンピックとメディアの視点から
(The Value of Sport and the Society)

結城 和香子 (YUKI WAKAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN234
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG7210
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程学生対象
2022 年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可	

授業の目標 / Course Objectives

心と体を動かすという意味での、広義のスポーツをどう評価し生かすかは、私たちの社会の未来にも深く関わる。スポーツがもたらす社会変化や課題の実例を取りつつ、多面的に考察する視点を養う。また、その視点を生かした社会活動や研究を実践することができる。

Social awareness of the value of Sport, in its broader sense of how we activate our mind and body, could have profound significance to our future. This course aims to cultivate a balanced view on what is the social value of sport for us, using current/historical events as case studies. Also, the course encourages participants to carry out social and academic activities based on the value of sport.

授業の内容 / Course Contents

五輪・パラリンピック等が触媒としてもたらしてきた社会変化をメディアの視点から検証し、スポーツの力とは何かの具体的考察を、論議や発表も交えて行う。また、日本社会の未来に向けたスポーツの価値の生かし方

を考察し、討論する。

This course will evaluate the 'value of sport' from journalistic point of view, using practical cases and their social impacts taking the Olympic and Paralympic Games as example. Students are encouraged to take part in the debates and give presentations. Also, the course would require participants to study how we would use value of sport to shape the future of our society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：総論 スポーツの力とは
- 2回：2024年パリ大会①国際的分断の中での「新時代の五輪」
- 3回：2024年パリ大会②パラリンピックの挑戦
- 4回：2020年東京大会が残した正負のレガシー
- 5回：パラリンピック運動の本質～歴史的俯瞰と理念
- 6回：パラリンピックと社会へのレガシー
- 7回：オリンピック運動の本質～歴史的俯瞰と理念
- 8回：オリンピックと社会へのレガシー
- 9回：スポーツを蝕むもの① ドーピングの深淵
- 10回：スポーツを蝕むもの② 招致疑惑とカネ
- 11回：スポーツを蝕むもの③ 政治的圧力
- 12回：スポーツの力 討論1 「違い」を超える
- 13回：スポーツの力 討論2 国際社会の課題とスポーツ
- 14回：総括 スポーツの価値をどう生かすか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

記事を含む文献を読み、次回授業で指定された主題について考察する。また、自身の体験を踏まえたスポーツの価値についてまとめ、発表する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表及び討論参加度:40% リアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト/ Textbooks

Olympic Charter, IOC Fact Sheets/ IPC Annual Report

参考文献 / Readings

読売新聞取材班 『報道記録 東京2020オリンピック・パラリンピック』 読売新聞社 2022

Bylined articles from The Yomiuri Shimbun

注意事項(検索結果画面)

後期課程学生対象/2022年度以前入学コミュニティ福祉学研究科履修不可

SW研究19（環境教育）

Studies in Sports Wellness 19(Environmental Education)

生物多様性と現代社会、そして私たちの暮らし

鹿熊 勤 (KAKUMA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN236

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SWG7210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

「SDGs」「環境共生型社会」「人新世」といった言葉が政治経済の表舞台に登場するようになった。これらは環境をないがしろにしてきた経済活動への反省であり、人と自然の関係性に新たな模索が必要になったという共通認識にほかならない。そこで想起されている「自然」とは生物多様性に象徴される「生態系」のことだが、多くの現代人にとって自然は抽象的な存在である。SDGs、環境共生型社会の実現を“口先”だけのものにしないうために、私たちの日々の暮らしやその選択を生物多様性の視点で振り返り、自然に対する科学的・社会的なリテラシー

Terms such as "SDGs," "environmentally symbiotic society," and "anthropocene" have come to appear on the front stage of political economy. These are reflections on economic activities that have neglected the environment, and are nothing but a common understanding that a new search is needed for the relationship between humans and nature. The "nature" recalled there is an "ecosystem" symbolized by biodiversity, but for many people in modern society, nature is an abstract existence. In order not to make the realization of the SDGs and an environmentally symbiotic society only empty words, we have to look back on our daily lives and choices

from the perspective of biodiversity, and concretely raise our scientific and social literacy for nature.

授業の内容 / Course Contents

とかく縁遠いと思われがちな「生物多様性」は、じつはとても身近な問題であり、その未来は私たちの暮らしの選択に大きく左右される。自然環境を取り巻く課題をさまざまな角度から考察することで、人間活動と環境の現状、持続可能性の真の意味を議論し、理想的な社会システムのありようについて考察する。

"Biodiversity," which is often thought to be a distant issue, is actually a very familiar problem, and its future depends greatly on our lifestyle choices. By considering issues surrounding the natural environment from various viewpoints, this course will discuss the current state of human activities and the environment, the true meaning of sustainability, and consider an ideal social system. In addition, the students will be able to actually collect data and link it to conference presentations and writing papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：生物多様性と持続可能性

Biodiversity and sustainability

2 回：人は自然をどのように利用してきたか（狩猟採集時代の痕跡から）

How people have used nature

Traces from the hunter-gatherer era

3 回：人は自然をどのように利用してきたか（日本列島の里山と文化の視点から）

How people have used nature

From the perspective of Satoyama and culture of the Japanese archipelago

4 回：食糧生産の現状 1（有機農業と土壌生態系）

Current status of food production 1

Organic agriculture and soil ecosystem

5 回：種子と生命（遺伝資源の過去・現在・未来）

Seeds and life

Past, present and future of genetic resources

6 回：食糧生産の現状 2（漁業と持続的資源管理）

Current status of food production 2

Fisheries and sustainable resource management

7 回：生物多様性を守る 1（生息域と個体数管理の現状）

Protect biodiversity 1

Status of habitat and population management

8 回：生物多様性を守る 2（外来種問題の現状）

Protect biodiversity 2

Current status of alien species problem

9 回：アニマルライツとアニマルウェルフェア（生命倫理の現在）

Animal rights and animal welfare

Current state of bioethics

10 回：公害と環境破壊

Pollution and environmental damage

11 回：再生可能エネルギーを検証する

Verify renewable energy

12回：消費行動と環境共生型社会

Consumer behavior and an environment-friendly society

13回：自然教育、環境教育の今

Current state of nature education and environmental education

14回：総合討議

General debate

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

SDGs / 環境共生型社会 / 持続可能性 / 人新世 / グリーン経済 / エネルギー / 生物多様性などのキーワードについて日ごろから関心を持ち調べておくこと。毎回の授業ごとに各自復習し、学んだことを翌週の授業冒頭で述べる。

Be interested in and research keywords such as SDGs/environmentally symbiotic society/sustainability/Anthropocene/green economy/energy/biodiversity on a

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度及びコメントペーパーの内容:50% 議論における発言の論理性:20%
最終レポート割合：:30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

ジェイン・ジェイコブス 『経済の本質』 日本経済新聞社 2013 9784532197018 -

宮永健太郎 『持続可能な発展の話』 岩波書店 2023 9784532197018 -

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究 21 (スポーツ文化と教育)

Studies in Sports Wellness 21(Sport Culture and Education)

スポーツ文化と教育の未来を考えてみよう

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN240
授業形態：	オンライン (一部対面)
授業形態 (補足事項)	第 14 回は対面で実施する
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG7210
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ文化と教育の問題に関わって、主に体育学を中心に社会学、教育学の分野融合的な基礎的知識を、文献、論文等を精読することで学ぶとともに、具体的な問題に向けての知識の活用について報告をまとめ議論することから、求められる専門的な資質や能力を育む。更に、実際にデータ収集を行い学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

授業の内容 / Course Contents

文化と教育は、日常生活の中であって、鶏と卵のような循環的な関係をなしている。スポーツを、このような文化と教育が循環的な関係の中で構築される一つの社会事象だと考えたときに、そこには、社会の現在と未来、スポーツと人間の関係の現在と未来が映し出される。このような課題意識に基づいて、文献、論文を読み合い議論することを通して、実践と理論の循環する生きた知識を習得する。更に、データ収集、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション - 講義の進め方、学び方について

- 2回：インターネットから検索した記事を共有しよう①-教育に焦点づけて-
- 3回：インターネットから検索した記事を共有しよう②-スポーツに焦点づけて-
- 4回：インターネットから検索した記事を共有しよう③-社会に焦点づけて-
- 5回：論文を読んで議論してみよう①-教育に焦点づけて-
- 6回：論文を読んで議論してみよう②-スポーツに焦点づけて-
- 7回：論文を読んで議論してみよう③-社会に焦点づけて-
- 8回：スポーツと教育について、外部ともつながってワークショップを行なってみよう①
- 9回：文献を読んで議論しよう①-体育学・スポーツ科学領域-
- 10回：文献を読んで議論しよう②-教育学領域-
- 11回：文献を読んで議論しよう③-社会学領域-
- 12回：文献を読んで議論しよう④-文化論領域-
- 13回：文献を読んで議論しよう⑤-総合領域-
- 14回：スポーツと教育について、外部ともつながってワークショップを行なってみよう②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告のための予習を定期的に指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テーマごとの報告:40% ワークショップの準備と評価:30% 最終レポート割合 :30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

ウンベルト・エコ 『論文作法—調査・研究・執筆の技術と手順—』 而立書房 1991 9784880591452 -
講義中に指示する

参考文献 / Readings

松田恵示 『遊びから考える体育の指導』 創文企画 2016 9784864130844
講義中に指示する

注意事項 (検索結果画面)

後期課程学生対象

SW研究22（アスレティックトレーニング）

Studies in Sports Wellness 22(Athletic Training, Conditioning)

アスレティックトレーニング学 コンディショニング

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN242
授業形態：	オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項）	オンライン（一部対面：3回ほど対面にて実施予定）
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SWG7110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

スポーツに関する研究手法を国内外の論文から学び、その研究手法などを理解することで自身の研究活動に活かすことができるようになること。さらに、自身の研究データ収集を行い、学会発表や論文執筆により研究成果の公表に結び付けることができるようになる。

This course aims to study sports-related research methods from domestic and foreign papers, and to be able to use it in your own research activities by understanding the research methods.

授業の内容 / Course Contents

本講義は受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、国際誌の論文を精読し、内容発表を行う。また、自身の研究に関する発表も行い、プレゼンテーションのスキルアップも図る。さらに、スポーツ現場の見学を行い、現場における研究課題の探求を行う。

Through this course, the students are expected to read the dissertation of the international journals and present the contents in order to support the student's voluntary research activities. In addition, the students will make

presentations on their research so that they may improve their presentation skills. In addition, tour sports sites and explore research topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・スポーツ科学における研究手法について
- 2回：自身の研究概要発表
- 3回：プレゼンテーションスキル
- 4回：批判的レビュー
- 5回：スポーツ傷害予防に向けたコンディショニング
- 6回：パフォーマンス向上に向けたコンディショニング
- 7回：コンディショニングに関する情報（オーバートレーニング）
- 8回：コンディショニングに関する情報（睡眠、メンタルトレーニング）
- 9回：動作の観察と分析
- 10回：下肢の外傷・障害
- 11回：上肢の外傷・障害
- 12回：頭頸部・体幹の外傷・障害
- 13回：スポーツ現場における研究課題の探求
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で発表される文献を事前に必ず読み、疑問点や討論したい内容等を予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度および準備:90% 学期末発表:10%

後期課程の評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。併せて、課題の提出を求める。

テキスト / Textbooks

授業内で適宜配布する。

参考文献 / Readings

British Journal of Sports Medicine (BJSM), Sports Medicine, International Review of Sport and Exercise Psychology, American Journal of Sports Medicine

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究 23 (抗加齢医学、時間医療科学)

Studies in Sports Wellness 23(Anti-Aging Medicine, Chrono-Medical Science)

抗加齢医学、時間医療科学

服部 淳彦 (HATTORI ATSUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科
科目コード等： SN244
授業形態： オンライン (一部対面)
授業形態 (補足事項) 最初と最後の回は対面で実施する。変更になった場合は Canvas LMS で配信する
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG7210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

生命現象を分子レベルの視点から様々な切り口でとらえ、そこから得られる情報を理解し、各々の研究活動に役に立つだけでなく、新しい研究領域に取り組む動機づけになることを目標とする。さらに、実際に収集したデータなどをもとに解析を行い、授業内で発表し、最後に学会発表や論文に結び付けることを目標とする。

The purpose of this course is to understand life phenomena from various viewpoints at the molecular level, and to use the information obtained in this way in our own research activities. Furthermore, the goal is to conduct analysis based on the actual data collected, present it in class, and finally link it to a conference presentation or paper.

授業の内容 / Course Contents

分子生物学や構造生物学の発展により、生命現象が分子レベルでとらえられるようになってきた。特に 21 世紀に入ってから、時間医療科学 (時間生物学)、宇宙生命科学、抗加齢医学などといった様々な学問の融合領域が盛況になり、研究対象が同じ物質や同じシステムであっても、時間領域や空間領域の見方が異なれば、研究アプローチの仕方も異なってくる。そこで、担当教員の専門分野である時間医療科学 (時間生物学) や抗加齢医

学を切り口に、分子生命科学の基礎とその応用を紹介する。

With the development of molecular biology and structural biology, life phenomena have come to be understood at the molecular level. In particular, since the beginning of the 21st century, the fusion of various disciplines, such as chrono-medical science (chronobiology), astrobiology, and anti-aging medicine, has been flourishing. Therefore, this lecture will introduce the fundamentals of molecular life science and its applications with a focus on chronobiology and anti-aging medicine.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：時間医療科学・時間生物学とは？
- 2 回：生命が示すリズム現象（秒単位から 100 年単位のリズム）
- 3 回：生物が持つ概日（サーカディアン）リズム
- 4 回：概日時計の性質
- 5 回：ヒトにおける概日時計の存在部位
- 6 回：時計遺伝子とそのメカニズム
- 7 回：概日時計のシグナル伝達物質：メラトニン
- 8 回：メラトニンと睡眠・記憶
- 9 回：寿命と老化と宇宙
- 10 回：運動器における老化とその対策
- 11 回：感覚器における老化とその対策
- 12 回：老化の原因遺伝子
- 13 回：老化の原因物質：フリーラジカルと活性酸素と糖化
- 14 回：高齢者と宇宙飛行士の健康を支えるメラトニン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個人の発表内容:50% 出席および授業参加度:50%

すべての評価基準において、前期課程より高度な達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

服部淳彦 『メラトニンとエイジング』 比較生理生化学 2017 年 34 巻 01

日本抗加齢医学会 『アンチエイジング医学の基礎と臨床』 メディカルビュー社 2023 年

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自然科学や研究に対して興味があり、前期課程において研究に関する基本的な考えを習得している学生

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC

注意事項（検索結果画面）

後期課程学生対象

SW研究 24 (ウェルネス医学)

Studies in Sports Wellness 24(Wellness Medicine)

土肥 美智子 (DOHI MICHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウェルネス学研究科
科目コード等： SN246
授業形態： オンライン (一部対面)
授業形態 (補足事項) オンライン (一部対面、対面は2回を予定)
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SWG7210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程学生対象

授業の目標 / Course Objectives

ウェルネスについて様々な組織の取り組みや政策について学び、その中でウェルネス医学の役割について理解する。更に、得られた知見や自身の考えを学会発表や論文執筆に結び付けることができる。

Learn about the initiatives and policies of various organisations on wellness and understand the role of wellness medicine in this context. Furthermore, students will be able to link their findings and their own ideas to conference presentations and writing papers.

授業の内容 / Course Contents

本講義では日本語または英語のウェルネスに関する文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。更に、学会発表や論文執筆へのアドバイスを行う。

In this course, in addition to learning from literature and textbooks on wellness in Japanese and English, students read review articles in international journals of their own choice, present the contents, and then explain and discuss the contents in order to support their independent research activities. The students will also be given advice on conference presentations and the writing of papers

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・ウエルネスとは
- 2回：厚生労働省の取り組みについての発表および議論
- 3回：一般社団法人日本ウエルネス協会の取り組みについての発表および議論
- 4回：世界保健機構の取り組みについての発表および議論
- 5回：国際オリンピック委員会の取り組みについての発表および議論
- 6回：ユネスコの取り組みについての発表および議論
- 7回：ウエルネスと医療についての発表および議論
- 8回：ウエルネスとメンタルヘルスについての発表および議論
- 9回：ウエルネスとウエルビーイングの違いについての発表および議論
- 10回：ウエルネスと介護についての発表および議論
- 11回：女性のウエルネスについての発表および議論
- 12回：ウエルネスとSDGsについての発表及び議論
- 13回：ウエルネスと地域社会での取り組みについての発表及び議論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業で発表する内容を事前に調べ、発表をできるようにして授業に臨むこと

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表および討論参加:100%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを活用したプレゼンテーション

注意事項(検索結果画面)

後期課程学生対象

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN700
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN701

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN702
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN703
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN704

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN705
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN706
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN750
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN751
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN752
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN753
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN754

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN755

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN756

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにする。

Each student will set his/her own research theme and conduct individual research under the guidance of a faculty professors so that he/she can compile research results that will lead to a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

Consideration of doctoral dissertation. Faculty professors will examine the research theme, review prior research, and structure of the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：研究テーマ設定

- 3回：研究テーマの妥当性検討
 4回：研究テーマ決定
 5回：先行研究に関する検討
 6回：研究方法についての検討
 7回：研究の進捗についての報告、討議
 8回：研究の進捗についての報告、修正
 9回：論文執筆状況の報告、討議
 10回：論文執筆状況の報告、修正
 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
 13回：研究および論文の最終確認
 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN800
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教員による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN801
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN802
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN803
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN804
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN805
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN806

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN807

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN808
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN809
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN810

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN811
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN850
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN851
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN852
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN853
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科
科目コード等： SN854
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： SWG7630
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN855
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科
科目コード等： SN856
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： SWG7630
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN857

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN858
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN859
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN860
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN861
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN900
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN901
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN902
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN903
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN904

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN905
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN906
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN907

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN908
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN909
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN910
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN911
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN950

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

沼澤 秀雄 (NUMAZAWA HIDEO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN951
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN952
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN953
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN954
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN955
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN956
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN957

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN958
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： スポーツウエルネス学研究科

科目コード等： SN959

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SWG7630

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。

In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etnier, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN960
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著，宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導

研究指導

Seminar for Doctoral Thesis

博士学位論文をまとめる。

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	スポーツウエルネス学研究科
科目コード等：	SN961
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	
科目ナンバリング：	SWG7630
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	副指導教授による研究指導

授業の目標 / Course Objectives

多様な研究領域に接し、学際的な観点も見据えながら自らの研究内容を深める。その一環として、院生同士の研究発表会や意見交換会などを設け、他の研究なども参考にしつつ、切磋琢磨して自身の研究を深める環境を作る。

Students will be exposed to a variety of research areas, and will deepen their own research with an interdisciplinary perspective in mind. As part of this process, students will create an environment where graduate students can deepen their own research through friendly rivalry, while referring to other research by holding research presentations and opinion exchange meetings.

授業の内容 / Course Contents

各自の専門分野に関する専門的知識を身に付けると共に、幅広い視野を身に付けるための関連領域について学習する。また自立的な研究者として必要な能力や技法を身に付けるため、様々な教育プログラムを展開する。In addition to acquiring specialized knowledge in their own fields, students learn about related fields in order to acquire a broad perspective. In order to acquire the skills and techniques necessary to be an independent

researcher, a variety of educational programs are developed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマ設定
- 3回：研究テーマの妥当性検討
- 4回：研究テーマ決定
- 5回：先行研究に関する検討
- 6回：研究方法についての検討
- 7回：研究の進捗についての報告、討議
- 8回：研究の進捗についての報告、修正
- 9回：論文執筆状況の報告、討議
- 10回：論文執筆状況の報告、修正
- 11回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、発表
- 12回：研究の進捗、論文執筆状況の報告、再発表
- 13回：研究および論文の最終確認
- 14回：博士論文発表会の報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集・抄読、研究科内外の研究会や学会等への参加や発表、そして博士学位修得に向けた論文の執筆を行う。同時に、研究科紀要や学会誌への論文投稿を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 年度初めに指導教授・副指導教授と相談のうえ提出される「研究題目・指導教授届」と、学期末に提出される「期末研究報告書」をもとに総合的な評価を行う。:100%

テキスト / Textbooks

ジェリー・トーマス&ジャック・ネルソン 著, 宮下充政・片岡暁夫 監修 『最新 体育・スポーツ科学研究法』 大修館書店 1999 4469264032 -

参考文献 / Readings

Jerry R. Thomas, Ph.D. Martin, Philip E., Ph.D. Etner, Jennifer L., Stephen J. Silverman Research Methods in Physical Activity (English Edition) Human Kinetics 2022 1718213042

日本学術振興会編 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 丸善出版 2015 4621089145

注意事項（検索結果画面）

副指導教授による研究指導